
令和3年 第4回 対馬市議会定例会会議録(第4日)

令和3年12月10日(金曜日)

議事日程(第4号)

令和3年12月10日 午前10時00分開議

日程第1 市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 市政一般質問

出席議員(19名)

1番 糸瀬 雅之君	2番 陶山荘太郎君
3番 神宮 保夫君	4番 島居 真吾君
5番 坂本 充弘君	6番 伊原 徹君
7番 入江 有紀君	8番 船越 洋一君
9番 脇本 啓喜君	10番 春田 新一君
11番 小島 徳重君	12番 小田 昭人君
13番 波田 政和君	14番 小宮 教義君
15番 上野洋次郎君	16番 大浦 孝司君
17番 作元 義文君	18番 黒田 昭雄君
19番 初村 久藏君	

欠席議員(なし)

欠 員(なし)

事務局出席職員職氏名

局長	國分 幸和君	次長	平間 博文君
課長補佐	柚谷 智之君	係長	犬束 興樹君

説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵 輝孝君
教育長	永留 和博君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	桐谷 和孝君
しまづくり推進部長	伊賀 敏治君
観光交流商工部長	村井 英哉君
市民生活部長	二宮 照幸君
福祉保険部長	乙成 一也君
健康づくり推進部長	松井 恵夫君
農林水産部長	黒岩 慶有君
建設部長	佐々木雅仁君
水道局長	立花 大功君
教育部長	八島 誠治君
中対馬振興部長	波田 安德君
上対馬振興部長	森山 忠昭君
美津島行政サービスセンター所長	瀧川 昌浩君
峰行政サービスセンター所長	藤原 亘宏君
上県行政サービスセンター所長	原田 勝彦君
消防長	主藤 庄司君
会計管理者	阿比留 裕君
監査委員事務局長	内山 歩君
農業委員会事務局長	主藤 公康君

午前10時00分開議

○議長（初村 久藏君） おはようございます。総務部長、木寺裕也君から欠席の申出があります。

ただいまから議事日程第4号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（初村 久藏君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は4人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） おはようございます。会派自公・協働、9番議員の脇本啓喜です。

さて、令和4年度一般会計予算編成時期真ただ中ですが、1つ目は予算編成過程への市民参加・参画をいかに進めていくか。もう一つは、議会で可決された事業の進捗状況や成果達成状況の検証を含むPDCAサイクルの確立について、今回も市民協働を円滑に推進するため、2項目質問いたしますが、おのおの質問の前には結論から先に伝える方式で、質問の流れを、まずお示しいたします。

パネルの1を御覧ください。提案事項、対馬市を3地区に分割し、予算の一部を市民の自由裁量に任せてはどうか。提案理由は、対馬全体を対象とするよりも、3地区に分割したほうが市民ニーズを把握しやすい。2番、3地区に分割したほうが市民参加のハードルが低くなる。

パネルの2を御覧ください。財政課一括査定方式から枠配分予算の導入へ変更してはどうか。予算編成過程への市民参加のモデルは以下の3つのタイプがあると言われています。タイプAが説明責任の向上を目指して予算編成過程を公開すること、あるいは分かりやすい予算書を作成すること。タイプBは、市役所とは別に、市民が自治体予算全体の見直しと予算作成を行うこと。タイプCは市予算のうちの一部を分割した全地区に交付し、市民が地区予算を編成すること。

ここから本題に入ります。1番、予算編成過程への市民参加・参画について。通告をお伝えしたように、公益財団法人政治経済研究所、松田真由美研究員のレポートを参考にして、この項目は質問いたします。日本の地方自治体では、予算提案権は首長の専権事項であり、かつ執行権も首長にあるとはいえ、その間にある議決権は議会が握っています。しかし、多くの自治体では、予算案が議会によって修正されることはほとんどありませんでした。それを受けて、近年、各種の自治体計画策定レベルでの市民の参加が進んでいます。それに加えて、市民参加の流れは地方自治体の予算編成過程へも及び始めています。対馬市においても、総合計画をはじめ、各種計画策定に公募委員を入れたり、パブリックコメントを募集するなど、市民の意見を反映させることに努めていることは一定の評価をしています。

さて、日本における自治体予算編成過程の市民参加の動きを見ると、主要なものとして3つのタイプがあるようです。パネル3を御覧ください。結論から申し上げます。予算編成過程への市民参加・参画を図るため、タイプCを対馬市に見合った形式で導入してはどうでしょうか。

ところで、現在、対馬市には、わがまち元気創出支援事業がありますが、その違いも含めて、ここで説明いたします。タイプAは既存の制度の説明責任の向上を目指して予算編成過程を公開する、あるいは分かりやすい予算を作成する。例として、鳥取県ですが、鳥取県では予算編成過程をインターネットで公開し、全ての事業の要求書と財政課長、総務部長、知事、それぞれの査定状況が公開されています。これは市民、県民にとっては、どの時点で予算額が削られたかなど、予算編成過程が分かりやすくなりますが、予算内容に直接変化が生じる可能性は低いでしょう。

対馬市も、まずは定例市議会前の議会運営委員会終了後に、議案を市のホームページに公開し、予算については市政へ市民の関心を高めた上で、予算編成過程への透明性にも取り組んではいかがでしょうか。市長の所見を伺います。

タイプBは、市役所とは別に公募による市民が自治体予算全体の見直しと予算案作成を行います。埼玉県志木市では、一般市民で構成される市民委員会による予算編成を開始しました。これは、市民の意見が予算編成全般に直接反映できるメリットはありますが、代表制のない市民が予算案の対案を作成し、市長に提出できるという仕組みは問題があったかと考えられ、導入した市長が交代した、その時点で、この予算編成方式は終息されました。したがってタイプBは参考程度でよいかと思います。

タイプCは、市予算のうち一部を分割した全地区に交付し、市民が地区予算を編成する。例としては、名張市では各地区の地域づくり委員会による地域づくり事業に一括交付金を与え、一部の予算編成を市民に任せていました。当市の、わがまち元気創出支援事業とは異なり、資金の使途が限定されず補助率もありません。また、わがまち元気創出支援事業は、特定のグループが対象であり、地域住民全員を対象とはしていません。

制度導入の背後には、行政によるサービスが拡大する中で、受益は歓迎だが負担はしたくないという市民の意識が高まる一方、厳しい財政状況にあることを住民に理解してもらうことが必要であるという行政側の思惑がうかがえます。しかし、市全体の予算編成における位置づけは、あくまでも少額です。

また、事業の内容の特徴は、その多くが住民交流会イベントや環境美化、防犯など、これまでの町内会活動の延長線上にありました。この活動に以前から関わっていた人以外に、大幅な参加者を増やすことは期待できないような状況でした。

一方、一部の地区では、子育て支援と高齢者福祉に関わるサービスも開始しています。今後は、このような生活上のニーズの高い分野でサービスを提供することによって、住民の関心が高まる可能性があるでしょう。つまり、真の意味で地域の自己決定権を高めるには、財源移譲に加えて、権限の委譲が必要です。また、この制度は予算編成への市民の参加というよりは、地域のことは地域で決めるという地域内分権の例と言えます。ただ、住民ニーズの吸い上げと住民に対する説明責任と透明性の確保という問題は、地区レベルになったとしても、依然として残ります。

パネル4を御覧ください。市全体の優先順位、つまり全体を見渡す視野も非常に重要ですが、各地域の優先課題もあるはずで、全体予算の1から2%だけでもいいと思います。その予算に充ててみてはどうでしょうか。いわば鳥の目も必要ですが、虫の目、現場をつぶさに見る、そういう目も必要だと思います。

私は自治体の職務は大きく分けると1つはお金を稼ぐこと、もう一つは住民サービスの充実、

この2つであると思っています。前者はスケールメリットを享受するために、大きな単位が優位である一方で、後者は対象単位、人口や面積が少ないほど目が行き届きやすいというメリットがあります。例えば対馬市を3地区に分割し、予算の一部を交付することにより市民ニーズを吸い上げやすくして、市民が自分たちの住む身近な地区の予算について考える機会を設け、その参加するハードルを低くするメリットが期待できると思われまます。あえて誤解を恐れずに言わせていただくと、市民にとって事業の成功よりも事業の過程に参加をしたということに納得いただくことが重要なこともあると思います。市長の所見を求めます。

枠配分予算の導入について。予算編成の手法は大きく分けて2つあります。従来型の1事業ずつ財政課が査定する1件査定と、あらかじめ推計した翌年度の財源を一定のルールで各部局に予算編成前に配分し、部局がその範囲内で自主的・自律的に部局単位の予算案を作成する枠配分予算です。私は対馬市においては、福岡市等で採用されている枠配分予算を段階的に採用していくことを提案します。いきなり全てを枠配分予算へ移行することは、各部署で予算の査定ができる人材確保の観点等から困難であろうと思われまます。とりあえず、対馬市内の3分割地区を本庁の各部局に見立てて、一定の交付金を与えて経験を積んで、将来的に枠配分予算制度の導入を始めようでしょうか。市長の所見を求めます。

2番目、パネル5を御覧ください。予算執行状況及び成果達成状況の中間検証等、PDCAサイクルの確立について。提案事項は、庁舎内はもちろん、第三者によるPDCAサイクルの確立をしてはどうか。提案理由、財政逼迫の折、お金ではなく、対話で納得していただくことが大事だということ。それには行政職員の対話力の強化が必須であるということ。そして、目的を達成するためにはPDCAを循環、継続させるということ。

パネル6を御覧ください。PDCAと先ほどから何回も言っていますが、なかなか理解が難しいところがありますので、簡単に説明しておきます。PDCAとは継続的な業務を行うための改善策です。プラン・計画のP、これが済んだらDO、実行して、それからチェックをする、評価を加えて改善するアクションという、これがPDCAサイクルです。自己検証の在り方の再検討について、それから第三者機関による検証の導入について、市長の所見を求めます。

あとは答弁によっては自席から再質問させていただきます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。脇本議員の質問にお答えいたします。

本市の予算編成の流れについて簡単に説明いたしますと、各部局からの予算要求について、財政課によるヒアリングを行い、財政課査定の後、副市長査定を経て、市長である私が最終的に決定したものが予算案となります。

各種事業に係る予算要求は、経常的なもの、義務的なもの以外につきましては、対馬市総合計

画などに掲げる主要施策に基づくもののほか、各行政区等からの陳情、要望に基づいたものでございます。市民の要望を予算案に、また、その透明性という部分では、対馬市総合計画につきましても、その策定の折に市民ヒアリング、パブリックコメント、民間の方を中心とした審議会を行い、その意見を反映した計画となっておりますし、同計画と連動した対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましても同様に策定しております。

また、各行政区等からの要望につきましても、全てを即予算に反映することが理想ではありませんが、財源的にも限りがございますので、緊急性、費用対効果等を総合的に判断し、優先順位をつけての予算計上ということになり、予算要求まで至らないケースなど、即予算化できないものもあり、そういった場合は、その説明を添えて各区長等に回答をしているところであります。

次に、市内を3地区に分けて、地域のニーズに応じた事業の執行ができるような予算枠を配分できないかという質問についてでございますが、現在の本市の予算編成は、各担当部局が見積もった事業について、財政担当が1事業ごとに査定を行う、いわゆる一件査定方式となっております。枠配分方式を導入すれば、現場、各振興部等でございますけれども、振興部ごとの裁量が生かされ、より地域性を反映した予算になることが期待されますが、当然ながら、財政的見地からのチェックも必要であるため、現場における専門性の確保が必要になることに加え、各振興部の業務量をさらに増加させることも予想されるところであります。

現に、本市におきましても、平成18年度、19年度に一般財源枠を示しての当初予算編成を実施しているところではありますけれども、結局、財政課による1件ごとの要求内容確認、査定となった経緯もございます。限られた財源、限られた時間での作業ということを考えますと、将来に向けて検討すべき課題ではあります。予算の枠配分方式の導入は現状では難しいものと考えております。ただ、本市の場合、上対馬振興部、中対馬振興部がございますので、地域のニーズも把握しやすい状況でございますし、予算要求自体は各部局の裁量によるものでございますので、先ほども申しましたとおり、全てをすぐにとはまいりませんが、そういった要求も可能な限り予算に計上することとしております。

次に、予算の執行状況及び成果達成状況についての中間検証等、PDCAサイクル確立についてでございますけれども、先ほども挙げました対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく主要な施策につきましても、将来目標と年度ごとの目標を設定しており、年2回、民間の方を中心としたメンバーにより検証を行い、必要に応じ、目標項目の修正、追加等を行うとともに、その結果について議員の皆様にも御意見を頂くこととなっており、先日の全員協議会においても検証をいただきました。

また、今年度は総合計画に掲げる施策や総合戦略に係る子育て環境について、市民の満足度調査を実施いたします。予算化した全ての事業で、必ずしも成果が出るとは限りませんので、定期

的な見直しを行い、なるべく早い段階での事業改善、方向転換といった判断ができるよう、今後とも努めてまいります。現状、全ての事業において、外部の検証を実施しているわけではございませんので、より多くの事業について市民の意見が反映できるような仕組みづくりを目指してまいります。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 提案につきましては、今すぐには難しいが、できるところからやっっていこう、検討してみるという答弁であったかと思います。前向きな答弁でありがたい答弁だなというふうに思います。行政側だけが努力してもできることではありませんし、議会も、それから市民も、自分たちのことは自分たちで考えてみようという機運を上げていきたい、そういうふうに思っております。

こちらのほうは配っておりませんで、ちょっと小さいですけども、これから市民協働を進めていく上で、どういうことが期待されているかということについて、少し話させていただきます。こちらに書いているように、江戸時代、その前からずっと、政治といえばトップダウンの政治だということが続いてきました。それから、その後、ボトムアップとあって、市民から吸い上げてやっっていくという動きに変わってきました。そして、今、並行して行われているのが、行政と市民が上とか下とかではなくて、対等な関係、フラットな関係で政治をやっっていこうという、そういう時代に来ていると思っております。議会も活用して、行政と市民がフラットな関係で町づくりを進めていく。これが対馬市市民基本条例にも書いてあることだと、そういうふうに思っていますので、これを進めていきたいと思っておりますが、私の認識について、市長、こういう形で間違っていないでしょうか。お聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 基本的には間違いはないと私も思いますけれども、議員が冒頭申されたように、対馬市の予算編成等につきましては、私の市長提案に基づきまして、市民の皆様から負託された議会議員の皆様によって、審査、検証をされ、予算編成をするといった現在のシステムが私は今現在では望ましいのではないのかなと思っております。今、議員がおっしゃられたように、トップダウンとかボトムアップとか、いろいろな方策はあろうかと思っておりますけれども、これを全体ではなくて、それぞれ個々の場合で、そのようなこともあり得るものだというふうに私自身は思っております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 私の言葉足らずのところも補っていただいてありがとうございます。基本というか、進めていきたいところは市民協働でフラットな関係であります、市長がお

っしゃられるように、トップダウンでやらなければいけないところはトップダウンで、そしてもっと市民から聞いて進めていくところは、そういうふうにしていくと、まさにそれが理想的だと思います。私の言葉足らずのところも補っていただきましてありがとうございました。そういう形で進めていただいたらというふうに思います。

さて、今、二元代表制なんだからという意味で、市長が提案したものを議会でしっかり審査して、予算を決定して行って、そして執行していくというのが、今のいい決め方だろうというふうな御意見だったと思います。確かにそのとおりだと私も思います。

その中で、一体、議員、議会って何のために置かれているのかということが、あまり市民のほうに伝え切れていない、私たち議会、議員の足りないところがあるんじゃないかなというふうに思っています。今から言うことも、それは理想だよと言われるかもしれませんが、私が思う市民協働を進めていく上での議会の役割というものについて話させていただきます。

それは、市民の人数が増えて、直接話し合っ物事を決めていくことが難しいので、自分の代わりとなる者をあらかじめ選び、その者に意思決定のプロセスを代理させることで意思決定の場に自分の意見、市民の意見を反映することができる、これが間接民主主義だと思います。実際に数年に一度の選挙で選ぶ議員が、それぞれの政策決定において常に自分の意見と等しい行動を取るかという、必ずしもそうでもありません。それは議員は代理人ではなくて代表者であるということからも言えると思います。代理人は弁護士と考えていただいたらいいかと思うのですが、依頼者から言われたことをやる、必ず依頼者にどうしたらいいかというのを確認を取ってやらなきゃいけません。議員は確かに市民から負託を受けていますが、多くの人の意見を聞いて、いろいろ違う意見の中から自分が選んで決定するということ、そこは違いがあるので、市民からしたら、私はあんなふうに言ったのに違う行動を取った、私はあの人に入れたのにということになる場合もあるかもしれません。

最近、私は少し別の見方をしています。これは福岡市の財政担当だった人がブログに書いていたことなのですが、議員は有権者のアバターだと思います。アバターというのは、ちょっと難しいかもしれませんが、自分がゲームをしている中で、そのゲームの中で動いてくれるものです。結局、自分の分身みたいなものだというふうに思っています。その中に自分の思いを投影して、その分身となるキャラクターの活動は自分でコントロールすることもできますが、放置しておくと、アバターそのものの設定に基づいて、その仮想世界で勝手に営みを進めてくれる。そういうものがアバターです。

したがって、市民は議員を通じて行政に自分の思いを伝える、そのための一つの分身だというふうに私は議員を捉えています。したがって、議員がどれだけ議論や、その前段階の対話をしているか、それを有権者がどれだけ知っているか、その密度と解像度が濃ければ濃いほど、自ら対

話の場に足を運ぶことができない市民にとって対話の疑似体験ができると思うのです。議会は議論の場、物事を最終的に決定する場ですが、その場に居合わせることができない多くの有権者にとっては、議員が議論をしていることが、あたかも自分が議論しているかのように感じられる。自分の分身の役割を果たしてくれれば、議論の前の対話の段階から、雑談や愚痴の段階から、議員の活動を自分の分身として認めることができ、その議員を通じて自分の意見が反映される。これが議員の役割だと思うのです。今、議員の役割だと思うんですと言ったのですが、これは実は行政の職員にも当てはまるんじゃないかと思うのです。御用聞きから始めること、全て要求を聞いてくださいということを行っているのではなくて、市民の要望、御意見をもう少し市役所の職員が現場に出て、話を聞きに行く。そういう時間的余裕をつくっていく必要があるのではないかというふうに思っています。そのためにも優先順位をつけて、何が大事な仕事なのか、そうでないもの、やらなくていいもの、しっかりと決めて、判断して、スクラップアンドビルドという言葉がありますけれども、何か新しいことをやろうと思うと、人間も費用も時間も限られているわけですから、何かを捨てないと新しいことはできないと思うのです。

市長、今の考えで、今後、チェックというところを十分やっていかなければいけないと思います。そのためには、庁舎内だけのチェックでは、どうしても甘くなると思うんです。これから今まで以上に第三者からのチェックを入れる、もちろん議会もチェックしますが、そういう機会をつくるということについて、市長はどのように考えていらっしゃるか、御意見を聞かせてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、先ほど議会議員の在り方というところの分につきましては、あくまで協本議員の考え方ということで、私のほうからは私の考え方というのは差し控えさせていただきます。その中で、職員の関係が、御用聞きという言葉がふさわしいかどうか、私はそこは分かりませんが、各地域からの要望、陳情が来た場合に、机の上で判断をするだけではなくて、例えば、公共事業、土木事業等につきましては、各担当部局が現場のほうに向いて、現場の状況等もチェック、確認をしながら、優先順位をつけていくといったことで、今現在、進めているところであります。決して、これが先ほど申しましたように、私のトップダウンとか、担当者の考え方のみでやっているわけではないということについては、御理解をお願いしたいというふうに思っておりますし、先ほどのPDCAの中のチェックの部分につきましては、これは冒頭申しましたように、議会からのチェックももちろんございます。そして、いろいろな審査機関等に相談をかけたりのチェックもあります。そういうことで、今後もPDCAサイクルの中のチェックもしっかりとしていきながら、事業等に取り組んでまいりたいと思います。もちろん、ここの中には監査委員会、ここからもかなりチェックの目を入れてもらっており

ますし、事務手続等についても、たまにそういった指導等があっけてきているようであります。今後もPDCAについては、特にチェックもしっかりと目を向けてやっていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） ありがとうございます。それでは、今、行政職員の役割ということでお話をさせていただきました。今度は市民のほうについてなんですけれども、平成16年に対馬市が合併しました。そのときに、まだ市長はできていなかったのですが、6町の町長たち、合併委員会のほうから、合併イベントを行うということがありました。その際、あの当時の人たちは、すごく度量があられたなと思ったのが、今でも思うのですけれども、対馬市商工会青年部に予算をつけてくださって、イベントを託してくださったんです。対馬市商工会青年部と言いましたけれども、当時はまだ6支部がそれぞれの支部でした。まだ対馬市商工会青年部という形になっていませんでした。そのときに、本当に何回も何回も、当時の町の青年部が最後のほうは1週間に1回くらい、夜なべ談義もしながら、イベントの計画に膝を付け合わせてやっていたことが思い出されます。そのとき、結構雨も降って、参加者も少なくて、一般の人からは、ああいいうイベントに無駄遣いしてというふうに言われたことも思い出します。しかし、あのときに、ああいいう毎週毎週、若い商工会青年部員が集まって、話合いを持ったことが、その後、今、対馬市商工会青年部、それから若い人たちの、対馬市になったんだ、対馬市としてまとまっていこうやという機運を醸成してくれたと思うんです。イベント自体は批判されたように大成功とは言えなかったかもしれないが、失敗と言われると、やはり一緒にやった人たちもいますし、悔しい思いはありますが、事業の成功よりも、そういう機会を設けるということが私は今こそ必要ではないかなというふうに思います。この市民協働というのを進めるに当たって、そういう若い人たちが何かやろうと思ったときに、そういう予算をつけていただく、そういうことについて市長の見解をお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私自身も若い方たちが何かをやろうということで企画書等を上げていただければ、十分に吟味して行って、これが対馬市の活性化になるという判断をすれば、十分に、そこは優先的にも予算をつけていきたいというふうに思っておりますし、私の前の市長であります財部市長の時代から、わがまち元気創出支援事業等におきましても、市民の方たちが本当にやる気を持ってやろうという事業には予算を優先的につけてきている実情がございます。今後もそのようなことで、本当に市民の皆様が真剣に対馬市のために何かをやろうということであれば、私も一緒になって対馬市の発展のために力を尽くしてまいりたいというふうに考えております。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 力強い答弁ありがとうございます。市民のほうも、やろうと思えば、市もそういうふう支援してくれるという心強い気持ちになられたと思います。今度は市民に向けてというところもあるのですが、比田勝の豊崎神社の大祭が毎年行われていますが、今年もコロナの関係で神事を行うぐらいで、御下り等もできませんでした。

コロナ前の最後のときには、比田勝の中でも私たちの班は片づけの担当になっていました。そのときに思ったことを前にブログに書いていましたので、紹介させていただきます。はっぴや足袋や相撲の土俵に巻かれた紅白布等を大勢の女性が毎年当番で、順繰りで洗濯しています。高齢化も進み、本当に大変な負担です。最近、近くにコインランドリーができたから、そこで洗濯するようにしたらどうねという声も上がりました。皆さんの負担を軽減してあげたいという、本当に優しい心から生まれたすばらしい提案だと思われます。しかし、毎年、順繰りに洗濯当番で集まった際に、顔を見合わせ、協力して作業をすることで、地域の絆を育み、継承する一助になってきた一面もあるんだろうと私は感じました。

豊崎神社の秋の大祭の準備に参加した折には、しめ縄づくりを今年は担当しました。少子高齢化が進む中、このような機会が大変貴重で、作業中に、昔、この地区で起こった水害のことや、古くからの言い伝えなど、興味深いお話をお年寄りからたくさん聞かせていただきました。

御存じのように、対馬の盆踊りが国の重要無形文化財に指定されました。古くからの踊りが今も残っているという現時点での価値もさることながら、毎年毎年、稽古を何日も重ねることで、対馬各地の盆踊りがそれぞれの地域で、今もなお地域の絆や郷土愛を育み続けている象徴として高い評価を受けたのではないかと、私は感じています。

少し話が横道にそれましたが、必ずしも会議を開催したり、アンケートを取らずとも、ある程度、関係者のニーズを把握することは、こういう行事があればできると思うのです。例えば、このような行事を通じてなど、多くの方から意見を寄せていただくような議員、かみしも脱いで市民に寄り添う、そういう議会、市長、市の職員、そういうのを目指していったらいいのではないかなというふうに、そのときに感じました。今のことについて、市長、何か御意見があればお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私もよく聞いていたのですけれども、意味が、どういうことをお聞きになりたいのか理解ができませんでした。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） すみません、私の説明が悪くて。

今、効率を第一に考えてやるのが社会の趨勢になってきているのですけれども、効率よりも

っと大事なもの、あえて言えば非効率なことを受け入れることで人々の絆が生まれてくる。田舎に住んでいて、いろんな地区のことに駆り出されることがあると思うのですが、都会に住んでいたらそういうことはないですよね。だけど、そこに行くことで、地域のことが把握できるじゃないですか。あそこのばあちゃんは今年来なかったね、何か骨折したらしいよとか、そういうことで、また市のほうの職員としても、災害のときに、あそこにああいう人がいたなということで早く助けに行けるとか。AIの時代が進んでも、なかなかデータでも取れないところ、そういうところが直接会うことによってできるということが私が言いたかったことなんです。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） やっと少し理解することができました。そういう意味で、議員がおっしゃりたいのが、要は地域との触れ合い、そしてまた関係を濃ゆくしていくことが重要ではないかというようなことをおっしゃりたいのだろうと私自身把握いたしました。

そういう意味からいたしますと、今、対馬市としましても地域マネージャー制度を取り入れまして、これで地域の方々とは深く結びついているのではないかなというふうに私自身は感じておりますし、もう少し地域マネージャー制度についても充実を図っていくことは求められるものと思っております。改善することも必要だというふうに思っております。そういうことで、市といたしましても、あくまで市民の中の一人として、先ほどの議員の言葉じゃありませんが、御用聞きを兼ねて市民の中に入ってまいりたいというふうに思います。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本尚喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） ありがとうございます。今、地域マネージャー制度の評価、自己評価があつたのですけれども、やはり評価はいろんな人がいろんなレベルでされると思います。私としては、こういうことこそ第三者の評価が大事なんじゃないかなと、今の答弁を聞いて思いました。確かに一生懸命やってくさっている地域マネージャーもいらっしゃいます。温度差があるのは、もちろん市長も分かっていると思います。どちらかというと、あまり活動していないところの市民のほうから、何もやっていないというような意見が出て、なかなか一生懸命やっていることを評価してくれない、これが市民の常ではないかなというふうに思っております。でも、そういう人たちにも理解してもらい、そういうふうに努めていくことが行政であり、議員の仕事ではないかなというふうに思います。自分がやっていること、それを理解してもらうために、しっかり情報発信もしていかなければいけないだろうというふうに思います。

今、地域に出て、しっかり地域の声を聞くことが大事だということでは市長と認識が一致したと思います。それを、この予算編成に生かしていただきたい、そういう思いから全部とは言いません、例えば上の振興部だったら2億、中だったら2億、それから南部のほうにも振興部はあり

ませんけれども、特別に3億とか4億、そのくらい、年間の予算の2%ぐらいです。それで自由に予算が、市民が考える機会をつくる、失敗するのは本当は税金でもったいたくないですけども、それも覚悟の上でやる。それは10年後、20年後、こういう市民協働が進んでいくための必要経費だと、そういうつもりで取り組んでいただきたいと思います。市長、今の必要経費だという考えについて、どういうふうに思われますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 必要経費と申されますけれども、これは対馬市の固定資産税等の税源も30億でございます。まして、そういった部分で、補助事業等をそういうふうに各枠配分等のほうに回すということであれば、会計検査等とか、いろんなしがらみも出てまいります。そういうことで、もし回せたとしても、単独の経費ぐらいではないと回すことは難しいのかなと、私自身、今、思っておりますし、これはまだまだ検討・研究を重ねないと、具体的なことは発言できないということで御勘弁願いたいと思います。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 結構です。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時10分からとします。

午前10時52分休憩

午前11時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） 皆さん、改めまして、おはようございます。新政会の春田新一でございます。

さて、コロナ禍で県内外への移動が制限をされておりましたが、ここに来て、久しぶりに移動ができるようになり、観光客も徐々にではありますが増えて明るい兆しが見えてまいりました。本市では、森林が島の面積の89%を占める自然豊かなで人情あふれる島だというふうによく言われております。しかし、現在では、自然は相変わらずよくない方向に変わり続けているような気がいたします。海面は海水温の上昇、動植物の変化も敏感になっているようにあります。漁業は獲れる魚の種類や漁獲高も減少している。また、磯焼けで藻場が減少し、ウニや貝類も漁獲量が減って、水産業に携わる方々の生活は厳しい状況であるというふうには推測をいたします。

島にとって持続可能とは何を意味するのでしょうか。比田勝市長も2期目の4年間、5つの拡大戦略を掲げられて、力強い市政運営に取り組んでおられます。2期目の道半ばではありますが、

本市の将来を見据えた道筋を立てられ、人、産業、地域を結び、自立と循環の宝の島対馬を創るためにも、引き続き、力強い市政運営を期待するところであります。

それでは、通告をしておりました今回3項目の4点についてお伺いをいたします。

まず、市政運営の1点目ですが、持続可能なしまづくり、本市における農林漁業や観光業の人材育成が重要であるというふうに思います。これから先を、将来を見据えた取組について、農業、漁業、その他の産業においても高齢化が進み、併せて後継者不足が深刻であるというふうに思います。

農業においては、農村が持つ多面的機能は貴重な対馬の資源であると考えます。現状に合った人材育成が必要ではないでしょうか。市長の将来に向けての見解もお伺いいたします。

また、漁業においても、海水温の上昇や食害の拡大等、磯焼けが毎年進んでいる状況にあると思います。このことは何名もの議員が質問をされております。磯焼けが毎年進んでいる状況にあると思います。藻場の回復が喫緊の課題であり、漁業就業者の安定確保は、本市の水産業にとって大きな課題であると思います。

農林水産、観光業は、本市にとって魅力ある産業で、所得の拡大につなげなければならないと考えますが、将来に向けて、また、子供、孫に残していくためには、どのような取組をしていったらいいのでしょうか、市長の見解をお伺いいたします。

次に、2点目です。市政運営の中で、本市の将来において新たな産業分野の考え方を伺うわけですが、現在まで人口減少に歯止めがかからない市政運営が続いています。この先、人口減少を食い止めるための新たな産業をつくる方向性、若者の流出や高齢化による労働力不足、また、疲弊する地域経済、危機に対応できる将来に向けた取組についてお尋ねをします。

次、2項目めです。強固な島づくりのための国道整備について。これは、大きな事業になりますのですぐにはいきませんが、一応市長の考え方を伺います。

対馬は、九州の最北端に位置し、北は対馬海峡西水道を挟んで朝鮮半島を望む国境の島で、島の長さは、南北約82キロメートル、東西約18キロメートルで、島の面積は約709キロ平米で中央部の浅茅湾、大小幾つもの入江と島々が複雑な入り込んだリアス式海岸となっています。複雑に入り込んだ地形により、海岸線の延長は911キロメートルとなっています。また上島と下島をつなぐ万関橋、その先には大船越橋、この2か所の橋で対馬の北から南までつながっています。万関橋は、観光客の今ではよりあい処になっています。

近年では、地球温暖化による気候変動の影響により、台風の大型化、集中豪雨など災害のリスクは高まっていると思います。特に、大船越橋は開通から50年が経過しているようにあります。橋梁の点検は実施されていますが、通行できなくなれば寸断も考えられます。通勤、緊急搬送、観光産業等、地域経済が大きなダメージを受けるのではないかと危惧をしているところであります。

す。

このことについて、将来に向けて、観光ルートも含め、壮大な計画の考えはないでしょうか、市長にお尋ねをいたします。

次に、3項目めでございます。このことにつきましては、昨日ですか、入江議員のほうから質問がございましたが、私のほうは方向を変えて質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

移転後の実績と今後の取組についてを伺います。

よりあい処つしまは、福岡を拠点とし、対馬ならではの情報、文化、物、味、雰囲気などを発信し、販路拡大、特産品の販売及び食材の需要の拡大、並びに誘客促進を図る目的で運営をされ、分野ごとにではありますが取組がなされていると思います。

当初は、博多駅前平成25年11月にスタートされ、令和元年まで、アンテナショップよりあい処つしまとして6年間営業されてきました。新たなよりあい処として、令和2年4月に築港本町にリニューアルオープンしています。また、この再出発できたのも、土地から建物においては、対馬出身者の善意ある方の御厚意に預かり、現在に至っていると思います。また、福岡市内外には対馬出身者も多く移住をされていると聞きます。

そのようなことを勘案しますとき、対馬事務所、よりあい処つしまは、あるべき姿かなというふうには思いますが、今までの経過を振り返りながら、新たな福岡事務所としての先の見える今後の運営の在り方についてお尋ねをいたします。

以上、3項目、4点について答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 春田議員の質問にお答えいたします。

初めに、1点目の市政運営についてでございますが、私は、5つの拡大戦略をもって持続可能なしまづくりを目指すとした所信表明を掲げて、市長2期6年目を迎えております。

この拡大戦略の中の1つに、今回の質問にあります、働くを主軸とした産業の拡大に取り組んでまいりました。農林水産業、観光業など全ての産業において共通した課題は、人口減少にまだまだ歯止めがかからないという点でございます。

対馬市長期人口ビジョンの人口推計によりますと、2040年の対馬市の人口は1万6,200人まで減少することが示唆されております。これは、労働世代の減少が進み、明らかに多業種において担い手が不足していく状況となりますので、県と連携し、合同企業面談会などUIターン事業と絡めた雇用の拡大と人口減少対策に取り組んでいるところであります。

農林水産業におきましても、担い手や新規就業者の確保、育成は喫緊の課題と捉えており、農林水産業を担う青年と新規就農者や新規漁業就業者の定着に取り組んでおります。

農業においては、収益力が高いアスパラガス栽培や畜産業を支援する技術研修を行い、規模拡大を図る農家を支援しております。

林業では、地域材供給倍増協議会において、素材生産量を年間約9万立方メートルまで倍増させる目標に向けて取り組んでおり、市といたしましても、生産コストを抑えるため、高性能な林業機械を導入する補助事業などに取り組んでおります。

また、水産業においても、島の魅力を戦略的に発信する観光業と連携し、体験漁業等を通じて、対馬の海の豊かさを認識してもらうために取組を強化しながら、PRにも努めてまいります。

一方、観光分野におきましては、国内外を問わず、観光客が対馬の魅力を存分に楽しんでいただける観光業の育成のため、地域社会維持推進交付金の雇用機会拡充支援事業を活用しながら、既存事業所の育成と新事業の操業支援を継続しつつ、農林水産業等の異業種産業との連携を図ってまいりたいと考えております。

次に、人口減少対策に向けた新たな産業の開拓、取組についてでございますが、非常に難度の高い取組ではございますが、現段階では、2つの産業構築が検討できないかと考えております。

まず1点目は、情報通信ネットワークを整備した中で、IT関連事業やコールセンターなどの産業が生み出せないかと考えております。これまでも、国等に対し、高度情報通信基盤の整備については要望してきたところではありますが、そのような産業、企業を誘致していく中では不可欠であり、高度情報通信基盤の整備を踏まえた中で、新たな産業として呼び込めないかを検討していきたいと考えております。

また、新たな産業ではありませんが、高度情報通信基盤を整備することにより、他地域居住やリモートワークなどの動きにも対応でき、関係人口や移住人口への増へとつなげられると考えております。

高度情報通信基盤の整備につきましては、早期着手に向けて、国等への要望、働きかけを鋭意行いながら取り組んでいきたいと考えております。

次に、2つ目がエネルギー産業であります。これは、自然エネルギーによる地産地消での活用を検討しながら、新たな産業として見出せないかと考えております。その一つが洋上風力発電あります。現在、モデル事業実施に向けて、関係漁民等との協議を行っているところであり、先行利用者である漁民等の理解を得ながら、モデル事業による海洋環境、海洋資源などへの影響、効果等を研究をしていきたいと考えております。

また、対馬市の電気事業を支えていただいている九州電力グループ様との協議、調整も必要になってまいります。将来的な電力需要の考え方や自然エネルギー活用に向けた電力調整などの協議が必要であり、双方並行しながら取り組んでいければというふうに考えております。

ただいま答弁させていただきました2つの事業は、短期的な実施は難しいと考えておりますけ

ども、あらゆる目線で検証、検討を行いながら、将来的な産業づくり、引いては人口減少対策への一助となるよう取り組んでまいりたいと考えております。

次に、強固なしまづくりのための国道の整備についてでございますが、議員御承知のとおり、対馬市の主要幹線道路は、豊玉町浦底地区より以北は、中央を縦断する国道382号、東沿岸を通る主要地方道上対馬豊玉線、また、美津島町雞知地区以南は、東沿岸を国道382号、西沿岸を周回する主要地方道厳原豆殿美津島線がございます。唯一1つの路線で結ばれている区間がリアス式海岸の浅茅湾の端部であります、豊玉町浦底地区から美津島町雞知地区でございます。

思い起こせば、合併以前、旧町の職員と交わり、対馬の道路について語るときに、主に豊玉町や美津島町の職員から、浅茅湾を抜け上と下とを結ぶルートができれば、観光、あるいは防災の面からも利便性がよい道路ができるなどと話した記憶がございます。

しかし、現実問題としましては、対馬の道路事業はまだまだ早期改良を進めていかなければならない区間を多数抱えており、県と市の財政面や費用対効果を考慮しますと、ままたまならないのが現状でございます。

また、対象となる浅茅湾の区間は、壱岐対馬国定公園の対馬地区に指定されていることもあり、新たな開発が妥当であるか議論をすべき区域であることも考えております。

対馬の将来構想として、国のダブルネットワーク構想を念頭に、長期的な展望として議論ができればというふうに思っています。この事業につきましては、平成28年度において、長崎県知事への要望としても掲げておりました。莫大な事業費となりますので、県営事業でも厳しいというふうに回答を頂き、現道の機能強化を努めていくというような回答でございました。

この第2国道につきましては、県と協議を重ね、今後時期を見極めながら、国などへの要望活動を検討してまいりたいというふうに考えております。

次に、アンテナショップよりあい処についてでございますけれども、よりあい処つしまは、昨年の4月に移転いたしました。移転後の実績については、入江議員の質問に答弁した内容と重複いたしますので簡単に申し上げますが、移転直後から、新型コロナウイルス感染症の影響で、この2年間非常に厳しい運営を強いられており、昨年度は、事業持続化給付金や情報発信拠点施設運営継続支援など、各種補助金により、僅かではあります黒字化しております。

また、今後の取組についてでございますが、福岡を中心とした北部九州地域における対馬の情報発信、PRの拠点となるアンテナショップとして、近隣のコンベンション施設の集客力やメディア露出を利用しながら、福岡事務所と連携して、対馬との関係人口を増やしてまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） 答弁ありがとうございました。

まず一問一答に入る前に、市長も市政運営の中で道半ばだと思いますが、この5つ掲げられてあります戦略について、もう今6年目に入りました。道半ばではあります、この5つの戦略について、今まで取り組んでこられたことが評価できる点、自分で評価するといったらなんでしょうけど、進んだなど、掲げてよかったなどというところ、そしてまた、これは難しいな、なかなか取り組んでも先進まないというようなところを、一つまず初めにお答えいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私が掲げました5つの拡大戦略についてでございますけども、このことにつきましては、まず第1期目の中でも、ふるさと納税の返礼品を掲げて、対馬の産業を活性化したいということで進めましたけども、少しずつではありますけども、寄附額のほうも増えてまいりました。そして、企業版ふるさと納税の関係でも徐々に増えてきております。

それと、今度、2期目の中で特にどれがいいのかということでもありますけども、まず2期目の場合、まだ2年目ということでありまして、今現在、雇用機会拡充支援事業の活用促進を図りながら進めておりますけども、これについては、一定の効果が出てきているのではないかなというふうに思っております。

それと、浅茅湾関係で和多都美神社を核とした観光開発を図っていこうということですが、この和多都美神社のほうに観光用のトイレができたことで、観光客の皆様から、きれいなトイレを造っていただいたということで感謝をされている状況でございます。

それと、また3点目につきましては、生活環境の拡大のところ、この道路等の整備についてでございますけども、対馬市が今現在抱えている道路整備の中で、特に尾浦浅藻線の道路につきましては、今後、大型の長いトンネル等に着手いたしますので、これまでの社会整備交付金では着手が困難というふうになっておりましたけども、昨年度、国交省のほうに出向きまして対馬の現状をお伝えし、道整備交付金への要望を重ねてきた結果、令和3年度におきまして、新たにこの採択を受けて、事業着手につくことができたというようなことでございます。

その中でもう一件、シルバー人材センターにつきましても、全島に拡大していくということで申し上げておりましたけども、これも、目標の延べ5,000人会にはほぼ近くまでなっているということで、来年度については、法人化に向けて進めていくということでございます。

それと、またこの人づくり、教育の拡大につきましては、対馬グローバル大学が開校できたということで、対馬市の発信や関係人口の拡大に貢献できたのではないかなというふうに思っておりますし、皆様御承知のとおり、昨年度にSDGs未来都市の選定を受けて、漂着ごみを核とした対策などに取り組んでおりますし、まだまだ対馬市を全国にアピールしてまいりたいと思っ

おります。

ただし、一貫して、この中で人口減少問題につきましては、昨日の小島議員のほうから、五島市に比べてちょっと人口減少の差が激しいということで、私も甚だ残念ではありますけども、今後一生懸命に事業等を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） すみません。ありがとうございます。通告はしておりませんが、全体的な市長の考え方を答弁頂きました、ありがとうございます。

4年前に、市民と議会と行政がオール対馬となり豪華なトライを決めてまいりましたということであるんですが、やはりその場合は、国境離島新法が施行された後から、対馬市にも追い風が吹いて運営がスムーズに行ったんじゃないかなというふうに思います。今は、コロナ禍もありまして、非常に厳しいこの経済情勢であります。そこで、向かい風が今吹いているんですが、これを何とか静めるためにどのような施策をしていくのか。いろいろな方法で、島の中ですから、山と海に囲まれた地域ですので、議員の皆さん19名とも農林水産業に関わる質問が多いというふうに思います。なかなか水産、農業について、開拓、改革がなされない状況のまま従事される方は高齢者になり、後継者は育たない、非常に厳しい対馬の中だというふうに思います。

先ほど私が述べましたように、島にとって持続可能とは何でしょうか、何を意味するのでしょうかということなんですけど、なかなかこれが一言で、持続可能なしまをつくりましょうというのであって、なかなか中身がついてこない。そういうことが非常に私は寂しいところなんですけど、これはもう市民の皆さんも理解をしていただいて、これからどうしていくのか、将来、子や孫に向けてどのような施策を組んで取り組んでいくのか、それが大事だろうというふうに思います。

しかし、それを明日、明後日やるんだということじゃなくして、長い目で見て、どのように今基盤をつくっておけば、将来的に子供たちが飯を食える島になれるのか、ここなんです。ここが一番私の質問したいところであって、やはりそのようなことは皆さん考えてあると思うんですけど、なかなかそれが進んでいかないのが現状であります。

先ほど市長も言われましたように、昨日の小島議員の人口減少対策について、五島市の紹介がなされましたけど、そこはそこで、五島と対馬は違いますので、対馬は対馬のやり方で結構なんです。どのようにしたら、市民も一緒になって協力してくれるのか。脇本議員もいつも涙を流して言っていますが、なかなか市民と行政と議会が一緒になれない。ここが残念なところであります。それをどうしようかということで、今は工面をするところですが、なかなかこれは個人一人一人の考え方があります。それを打ち破ることは、私は難しいと思います。

そこでできること、先ほど市長が脇本議員の質問にお答えなされましたが、もう脇本議員も少

し納得はしたようなところもあります。そのような方向性を持って、将来に向けてこの島がどのようになっていくのか、どうしたらいいのかということをやっぴりみんなで考えていかなければならないというふうに思ったところでもあります。

いろいろな角度ですばらしい議員の質問が続いております。市長も大変でしょうけど、これから将来に向けて、この島をこうしようというようなことは、やっぱりトップリーダーとして考えておかなければいけない。また、それを職員にさせていかなければいけない、これが仕事だというふうに思います。教育長もそのとおりだというふうに思っております。

だから、やはり難しいところはいっぱいあるんです。しかし、1人、2人でできる問題じゃありませんので、やはりみんなで力を合わせて、このことはここに聞いたらいいな、この人に頼んでこうしたらいいなど、そういうこともできると思うんです。だから、やっぱり行政だけじゃなくして、いろいろなところでいろいろなことを協議しながら先に進めるというのが、私は大事じゃなかろうかというふうに思っております。

ちょっと後戻りしましたが、水産のほうで、皆さん一生懸命、その地域に合った水産の取組、また、県やら国への要望について毎回されているようにあります。

磯焼け問題の解決は大変厳しい問題でもあります。総合計画前期を振り返りながら、後期の計画策定に当たり、市民の皆さんの声が少し挙がっておりますので、少し紹介できればなというふうに思います。

磯焼けの問題を解決できるように、食害生物の捕獲や利活用、藻場の再生にとって力を入れて取り組んでいただきたい。それから、持続可能な水産業を目指すためには、将来の人口や漁業就業者数の分析、地域の現状や将来の見える化などの取組が必要ではないかというようなことで、この水産のほうには市民からの意見が寄せられております。

そこら辺を先ほども、昨日もそのような答弁は市長もされていると思いますが、私の質問について、一言お願いをいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 水産業等において、やはり、今議員おっしゃられるように、将来の見える化をしていくことは大変重要なことだというふうに、私自身も思っているところでもありますけども、私は、常々特に対馬の水産業について思うことは、漁業者個人個人の所得が格段と減少したことが、対馬の漁業の衰退につながったのではないかと感じております。と申しますのも、私たちが四十数年前に役場に入ったときに、たしか初任給等が6万円ぐらいだったんじゃないかなというふうに思っておりますけども、その時期よく言われたのが、何で役場に入るのかと。漁業でイカ釣りに行けば、一晩でそのくらいの分は獲ってくるんだというようなことをよく言われた記憶が今でも残っております。また、そのほかにも、アワビやサザエの水揚げ、ヒジキの水揚

げといったように、まだまだ資源が豊富でありましたので、そういった観点から考えても、やはり所得の裕福さを掲げられて、そのようなことができたんじゃないかなと思っておりますけども、今現在を見ても、なかなか資源が回復をしてこないということで、先ほど議員もおっしゃられたように、磯焼けが進んで、イカこそ昨年から少し釣れてはおりますけども、減少してきたことが大きな要因ではないのかなというふうに考えております。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） どうもありがとうございます。

なかなか難しい問題であろうというふうに思いますが、持続可能なしまづくりのために、今後手を抜くことなく、この事業についても進めていただきたい。本当に水産業がなければ、対馬も裸の島になりますので、そこら辺はもう少し力を入れて取り組んでいただきたい。

それと、今度は林業のほうですが、先ほど市長の答弁の中にもありました。大型機械を入れて林業も進めているということですが、森林を利用する方法を組立て、利活用や管理ができるように何かいい方法はないでしょうかということなんですが、やはり、今、森林伐採、間伐、そういうふうな事業が島内で数多く行われております。これも本来雇用拡充については素晴らしい事業で取り組んであるというふうに思いますし、また、そこでいろんな後継者も育てておりますので、私は素晴らしい事業だというふうに思いますが、これを切りっぱなしであれば、島ですからなくなるわけです。その利活用や管理、後の管理をどうしていくのかということも、今後将来に向けて考えていかなければいけない。市長もいつのときだったか答弁は聞きましたが、今現在、将来に向けて、今、明日やるんじゃないかと、将来に向けてこのようなことを取り組んだら対馬はよくなるんじゃないかという方策を一つお答えをお願いします。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えいたします。

今後の森林の在り方でございますが、森林環境譲与税というのが新たにできまして、これまで対馬におられない不在村地主の方、それから、また、島内におりながらも高齢とかそういったことで自分の山の手入れができない方、そういった方たちが、市のほうに管理を委託さえしていただければ、この譲与税を有効に活用して、市のほうで責任を持って管理していくというふうなことを考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） ありがとうございます。

今いろんな国、県も施策を考えて、自伐型林業というのもありますので、そこら辺も対馬にとって大事なことだろうというふうに思いますので、将来に残せる事業として検討し、進めていた

だきたいというふうに思います。

次に、国内観光客のための人気スポットの場所、場所的には、歴史、文化、数々の遺産が残っております対馬ですから、非常にスポットは多くあるわけですが、その場所を集中的に観光客、今は、ほとんど国内観光客のようにあります。増えつつある中、これを逃がす必要もありませんので、増やす方向に向けた取組なんです、そのスポットを集中的に、また島内が周遊できるような取組をやっていかなければならないと思いますが、集中的に扱うところ、例えば、先ほど市長が答弁で言われましたように、豊玉の和多都美、その辺を集中的に整備するというような、集中的に予算をそこに投入してやっていく方向、今現在では、やはり少しずつの予算でやっておられますので、なかなか思うような、本土の人に、いやよかった、いい観光地ですねと言われるようなところは、私は、探せばあるかも分かりませんが探したことはありません。そういうことも視野に入れながら、今後やっぱり取組をしていかなければいけないんじゃないかなと思います、部長でも結構ですが、本当に豊玉が中ですから、まず対馬の中央をきちんと整備する、そして、本土の観光客に喜んでいただける。そういうことを、私はやっていただければなというふうに思うんですが、これも先を見据えた、対馬の将来を見据えた観光ルートというのも視野に入れながら、まず1か所きちんとしたものを整備していただいて喜んでもらって、2回、3回と足を運んでもらう、これが一番大事じゃないかなというふうに思います、考え方をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） また私が足らなかった分は部長に補足してもらいますけども、今、金田城につきましては、やはりNHKの番組で日本最強の城に選定されたということで、観光客のほうが増えつつあるところでもあります。そういう中で、ここは特別史跡に指定をされておりますので、大きな整備はなかなか文化庁の許可が難しいといったようなことで、まずはここに移動式の自動車トイレを配置してから、今度、上るところにVR、そして、AR等の施設を整備しましてから、昔のその城を再現していくといったようなことで、この金田城の集客力の機能強化を進めてまいりたいということで、今現在、事業を進めているところでございます。私のほうから、そこがちょっと今観光面では大きなところでもあります。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） 時間がありませんので、時間の計算をちょっとしていませんでした。すみません。

そのようなやはり取組を、トイレについては、これはもうすることが大事ですから、トイレがなければそこに人は動けませんから、人流はありませんから、トイレというのはもう基本ですから、トイレを造りますじゃなくて、造つとかにやいかんわけですから、そこはもうよくよく皆さん御理解はしてあるというふうに思います。

それでは、次、2項目めに移りたいと思います。

今後新たな産業分野を取り込んで、将来を見据えた取組についてお伺いするわけですが、やはり先ほど市長の答弁にもありましたように、ネットワーク、情報基盤整備、これが本当大事だろうというふうに思います。しかしながら、見えないところでやることですから、大きな予算もかかるというふうに思いますが、そういうふうに島ですから、そこはそこできちんと整備していただきたいというふうに思います。

私は、今回この産業については、新たな産業を取り込んでいかなければ、本当に若者がここで育っていかないのではないかと。そしてまた、所得が減って、税収も減るんじゃないか。そのようなことで危惧をして、少しお伺いをするわけですが、これも、本当にこの島にとっては難しい問題であります。なかなか難しい問題をクリアしなければいけない行政も大変かというふうに思うんですが、やはり、我々対馬で、今から先、これから先も生活をしていかなければならない上において、いるように進めていかなければいけないと思います。

これで、先ほど市長のほうから答弁がありました。洋上風力発電について。

世界的にこのような再生可能エネルギーが進んでいくようにあります。我々も、一昨日の代表質問で大浦議員のほうからもありましたが、私も今回は産業建設常任委員会で五島、北九州と2か所の行政視察を行いました。非常に北九州としては大都市でございますので、少しこの対馬とかけ離れた問題だろうというふうに思います。五島については、本当に人口も減少しなくて維持ができて、島全体が潤いを持っているというところは対馬と少し違うのかなという気がいたしました。我々も1日おっただけですのでよく把握はできませんでしたが、この洋上風力発電については、やはり取組がすばらしい。これはぜひ、本当に水産業に携わってやってある方々は非常に厳しい底を、飯を食べているところを箸を取るような感じのところもあるかと思いますが、みんなで考えて、この再生可能エネルギー、洋上風力発電を実施しなければ、私は、対馬は非常に今から先落ち込んでいって、人口も減少するというふうに思います。

このことにつきましては、私がいろいろな説明をする前に、まだまだいろいろな漁業者との取組、また、国の予算、そういうものも勘案しながら、行政のほうで進めていかなければいけないことですから、我々もそれに力を貸せるところがあるなら貸していって一緒にやっていきましょう。そういう考えで私はおります。

この雇用についてもすごいんです。令和2年度は、五島市、洋上風力発電を造るだけで、陸上で造るだけで9社で94名、今現在五島におられて、住まわれて、そこで事業を、工場を組み立てをしたり、そういう事業がなされている。そして、できてしまって経済波及効果は、これは見込みですが、約41億、雇用が360名を雇用してずっと継続して20年間、30年間やっていくんだという事業でございます。本当にすばらしい、対馬では考えられるかな、どうかという

ところはありますが、それに近いところまでみんなで力を合わせやっていきたいというふうに、私は思いました。

以上です。

それと、次は、第2国道の問題ですが、市長も答弁されました。以前、我々がまだまだ青年時代にいろいろな話があったというふうに聞き及んでおりますが、なかなか厳しいのではないかと、いうふうな御意見、また県にも要望されているということでございますが、なかなか莫大な予算がかかるわけですから、これは厳しいのかなというふうに思いますが、やはり船、海上、それから、空、航空、医療、病院、そういったことを勘案すると、美津島、巖原に集中的にそういう場所があるんです。これは致し方ないというふうに、私は考えます。北部の人間ですが、そういうふうに考えます。

しかし、その利便性を同様にということになってやっていくなら、やはり緊急搬送、あるいは医療の問題はやはり道路です。だから、その道路、私はちょっと大船越橋を申し上げましたけど、寸断も考えると言いましたけども、そういうことも考えながら、みんなで力を合わせて、これも大きな事業ですが、先の将来、子や孫に残せる対馬市の道路として、そしてまた、これから先の観光に対馬はいいところだなという観光ルートになればというふうに、私は思っております。だから、浅茅湾とリアス式海岸の質問を質問状で言わせていただきました。

やはりすばらしいところを眺めながら走っていく、これは本当に人間のストレスが解消されるというところも出てくるんじゃないかなというふうに思います。

このことはまたまた後々に少しずつでも先に進むように取り組んでいかれるようなことを考えながら、各団体の皆さんと協議をしながらやっていかなければいけないと思いますので、またそこら辺は少し私も勉強しながら、また折あるときに質問したいと思います。

時間がなくなりました。1分になりました。よりあい処つしま、これについては、リニューアルオープンされて今現在やっておられます。非常に今度は、場所が変わって客層も違ったと思います。そういうとこで、今後も赤字にならないように、みんなで取り組んでやっていただきたい。そしてまた、これはなくすことなく、対馬出身者も多くいらっしゃいます。多くのファンから喜んでもらえるような組織づくりと取組をやっていただきたい。そういうことを祈念し、私もまた視察に行きたいなというふうに思っておりますので、この善意ある対馬出身者の方の厚意を無にすることなく、みんなで取り組んでいきましょう。よろしく願いをしておきます。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、春田新一君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩とします。再開は午後1時からといたします。

午後0時00分休憩

午後1時01分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

報告します。大浦孝司君から早退の届出があつております。

午前に引き続き市政一般質問を行います。

8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 新政会の船越洋一でございます。

さきに通告をしておりました3点について、市長の答弁を求めます。

まず、1点目ですが、燃油高騰による漁業者の支援対策についてであります。御承知のように、対馬は第1次産業である漁業は対馬の基幹産業であります。全島で12漁協、組合員数3,848人、漁船数3,722隻で、対馬の経済に大きく寄与しておりますが、世界的な燃油の高騰で、年末を控え、出漁も思うようにできない状況であります。セーフティネットによる補填もありますが、安定操業をする燃油価格にはほど遠く、行政としての支援ができないか、市長にお伺いをいたします。

次に、人口減少対策についてであります。対馬の人口は毎年600人前後減少する状況が続いている中、行政もUIターンの促進等に力を入れておりますが、歯止めがかからない状況であります。離島がゆえのハンディがあると思っておりますが、光通信の速度が遅く、国内からの移住のネックになっていることもあると思われまので、インターネット通信速度を速める施策ができないか、お伺いをいたします。

次に、3点目であります。観光対策についてであります。

対馬は他町に類を見ないほどの史跡、文化財が数多く点在し、また、神社仏閣等も数多く島内にありますが、対馬の観光の在り方として、神社仏閣での御朱印の記帳等ができないか、各団体に働きかけていくべきだと思います。特に近年、国内の観光客に人気があり、ぜひ、やるべきだと思います。市長の考えを伺います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 船越議員の質問にお答えいたします。

初めに、燃油高騰による漁業者への支援対策についてでございます。漁業経営、セーフティネット構築事業の基礎となる原油価格については、令和2年4月以降、上昇傾向にあり、出漁の抑制につながるなど、漁家経営に大きな影響を及ぼしております。

セーフティネットの役割として、漁業用燃油の価格が上昇した場合、その影響を緩和するための備えとして、漁業者、養殖漁業者と国の拠出により燃油が上昇したときに影響を緩和するため

の補填金を交付する仕組みとなっております。

補填種類は主に2種類ありまして、四半期ごとに当該四半期の原油価格の平均価格が7中5平均値。要するに、直前7年間の各月の平均価格のうち、高値12月と低値12月を除いた5年分の平均値であります。これを超えた場合に交付される価格差補填と一定期間に急激な上昇があった場合に交付される急騰対策補填がございます。補填金は漁業者と国が1対1の割合で負担するものであり、最近のセーフティネットの状況は、平成30年度の第4四半期以降、補填発動はなかったものの、令和2年度の第4四半期以降、現在まで3期連続で急騰対策補填が発動する状況が継続しており、燃油価格が急騰したことが顕著に表れております。

対馬市においても、令和2年度より燃油価格が上昇傾向となり、出漁抑制等への影響が発生したことから、漁協組合長会より、燃油への補助に対して要望がありました。これを受けて、令和2年度より対馬市独自の取組として、燃油への直接補助を実施しております。

令和3年度からは、実施基準を明確化するため、セーフティネット事業への加入が条件ではありませんが、月に2回改訂される長崎県漁連の対馬統一単価の税抜き価格を基礎価格とし、四半期ごとに公表されるセーフティネットの発動状況を加味して、70円以上90円未満はリッター当たり5円、90円以上は10円の補助を実施しております。

令和3年1月以降、長崎県漁連単価についても上がり続ける中で、漁業者の皆様には、非常に厳しい経営を強いられていることと存じますが、その影響緩和のため、セーフティネットへの加入促進に努めていただくとともに、対馬市としても、地元の状況把握に努め、今後も継続して、燃油補助を実施してまいります。

次に、人口減少対策についてでございますけれども、UIターン者の支援策といたしまして、令和元年度から奨学金返還支援制度、令和3年度には結婚新生活支援制度を創設したところでございます。

また、定住促進策におきましては、雇用の拡大、地場産業の育成など、社会情勢に応じて対応しているところでございます。

所信表明でも述べましたが、本市が離島であるがゆえに、取り残されることがないように、市民がいつまでも安心して暮らせる持続可能な島づくりを進めていくためには、人口減少対策は最も重要な施策であると認識しております。その対策の中でも、IoTやAIなどの革新的技術によって実現する新しい社会「Society 5.0」に向けて将来を見据えたインターネット等の情報通信環境の強化が不可欠であると考えております。

本市の情報通信環境におきましては、全島にサービスを開始して以来、13年が経過しており、サーバー機器、通信機器ともに耐震年数を超えている状況にあります。平成28年3月に対馬市CATV施設更新計画を策定し、令和3年3月には、その更新計画の見直しを図り、主に通信ネ

ネットワーク系の重要機器の更新を優先し、整備を行っているところでございます。

インターネットの通信速度におきましては、開設当初は30メガバイトの基本プランのみでありましたが、平成27年4月から追加オプションといたしまして、100メガバイトの高速接続オプションプランを御用意し、市民の皆様の利用状況に応じ、選択できるようにいたしております。

また、情報通信技術の進展は著しく、スマートフォンやタブレットの普及、都市部を中心にサービスが開始されております5Gなど、情報通信を取り巻く状況が大きく変化してきており、これに対応していくには、最新の情勢を踏まえて、官民が連携し、一体となって、情報通信基盤を整備する必要があると考えております。

この情報通信基盤の強化を早期実現するために、高度無線環境整備推進事業を活用した改善策の検討に入っており、一定の方向性を含め、内容等早い時期にお示しできるよう準備を進めているところでございます。

併せまして、国・県への要望活動や民間通信事業者へ対する支援、協力依頼など、積極的に取り組んでまいります。

次に、観光対策についての御朱印に関する御質問でございますけれども、対馬には神社が130社あり、境内にある小さな神社を含めると約200の神社がございます。また、格式の高い式内社が29社あり、九州内の約3分の1が集中しております。

このような対馬の神社を参拝して回るのは、対馬観光の大きな魅力であることは言うに及びません。また、近年は御朱印帳を持参し、参拝した神社仏閣の御朱印を収集することが年配者に限らず、若者の間でも人気となっているようです。

しかしながら、島内の神社等においては、御朱印を直に書いていただける場所は少なく、予約が必要など多いようです。議員のおっしゃるとおり、御朱印の発行について御協力いただきたいところではございますが、各神社等の事情もあることと存じます。参拝の折に、現地で書いていただくことを基本としながらも、宮司等の会合の折などに、ふれあい処でのスタンプ対応など、よい方法がないか、御相談をさせていただきたいと考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） まず、1点目の燃油の高騰による漁業者への支援対策であります。まず、農林水産部長、セーフティネットに加入している漁業者の数はどのぐらいありますか。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えいたします。

加入者数は916名でございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 先ほど私は言いましたけども、漁業者数は3,000幾らあるんですけどね、セーフティネットに入っている方というのは、916件となりますと3分の1ですね。このセーフティネットというのも、いろいろ段階はありまして、小さい漁業者の方たちは入っていないところもあると思うんです。しかし、大型船になると、これに入っておけば、燃油の高騰の折には補助金が出ますので、有利になると思うんですよ。私が言いたいのは、要は、セーフティネットに入れない零細漁民の方がたくさんおると思うんですよ。そういう人たちには、この恩恵が行かない、いう状況が現状にあると思う。漁業者に対して、皆さんに平等に燃油価格が下がる施策は必要だろうと、私はそう思います。

それで、対馬市で、今、補填はどれぐらいしていますか。この緊急時に、部長。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えいたします。

この燃油の補助につきましては、昨年度からやっております。昨年度の予算が約2,000万でございます。今年度5,000万の当初予算で組まさせていただきますが、今年に入りまして、セーフティネットが発動し続けるほど、原油価格が上がり続けたものですから、予算が不足するおそれが出てきたということで、本定例会で、また、1,000万円をお願いをしているところでございます。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 燃油が高騰しとるというのは、もう皆さん御承知なんですね。分かっているんです。ところが、市長も言われるように、漁業は対馬の基幹産業なんです。対馬から漁業がなくなったら、対馬は沈没しますよ。それぐらい重要な業種なんです。そこに、皆さんが困っているというところに、行政が手厚く補助をしてやるということは必要不可欠だと私は思うんです。

市長、この際、やはり、こういう緊急事態ですから、起債でも上げて、漁業者の皆さんにリッター当たり10円ぐらい下がるぐらいの補助金を出すということは考えられませんか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、漁協の組合員数が約3,800数名いらっしゃるかと思うんですけども、この中には、准組合員の皆さんもいらっしゃるかというふうに思っております。特に、この准組合員の皆さんのことを聞いてみますと、サラリーマンをしながら副業的なことである皆さんもかなりいらっしゃるというふうに聞いております。そういうこともありまして、あくまで、平等に補助をしていくためにセーフティネット加入者という条件を出させていただい

ているところであります。それと、また、先ほど部長も答弁しましたとおり、これまで、令和2年度までは、競争力強化型の補助で、油への直接補助ではなくて、エンジンの改良とか、そういったところで燃費がよくなるようにということに対して、国のほうが2分の1の補助を構える。そこに、対馬市として、10%の上乗せをするというような形で、補助してまいりましたけども、昨年度、漁協組合長会のほうより、もう大方、競争力強化型での改造改良等は済んだのではないかということで、今後は、直接補助をお願いしたいということで要望がありましたので、私のほうも、そういうことであれば、対馬市としても、直接補助のほうに切り替えましょうということで、直接補助を今実施しているところであります。

それと、担当のほうに聞いたところによりますと、もう大体そろそろ、これまでのセーフティネットの補助5円から10円に切り替わっていくのではないかなというようなことで、今回12月補正でも、1,000万円の補正をお願いをしているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） エンジンの件は、この前の市長の会派代表質問で聞きましたので、それは終わっているから、今、私が言いたいのは、今、困っている漁業のされている方たちの燃油を何とかしてくださいというお願いなんです。漁業者の皆さんに成り代わって、私はここで市長をお願いをしよる。だから、こういう緊急時ですからね。緊急時だからこそ、起債を上げてでも漁民を救わないかんという気持ちがありますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 全て救いたいという気持ちはもちろん私も持っております。ただし、この油の燃油高騰等に関しましては、他の産業も実はシイタケ乾燥とか、対馬の場合は、あまり、イチゴハウスやら、そういったあれはありませんけど、そういう面でも、他の産業もございます。そういうことでございますので、私たちとしても、国が推奨している、何せ、このセーフティネットへ加入ができませんことはないです。そういうことで、できるだけ、セーフティネットへ加入してくださいということで、市としても進めているところでありますので、このことに関しまして、御理解をお願いしたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 農林水産部長、セーフティネットに入っている方が916件ですね。本年度の補正は5,000万と1,000万、今度1,000万補正組んでいますからね、今度6,000万です。今現在の漁協が年当たり1リッター当たり幾らしよるか分かりますか。漁協が漁民の人たちにリッター幾らで出しよるか。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えいたします。

税込価格105円38銭でございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） それは補助金を入れての金額ですか。対馬市が5,000万と今回1,000万、補正を組んでいますね。その金額を入れて、その金額なんですか。もう1回よろしくをお願いします。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） 私が先ほど申し上げたのは、漁連が販売している単価を私は申し上げます。（発言する者あり）はい。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 私が言いたいのは、漁連が出しよる金額は分かるんですね。ところが、対馬市が補正を組んで、6,000万組んで、それで、どれだけの効果があって、105円幾らかな、約106円ぐらいになると思うんですが、それに組み込まれて、その金額なのかというのを聞きよる。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） すみません。ちょっと、よく理解できなかったんですが、今……。 （発言する者あり）

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 今、106円、105円幾らですよ、漁連が出しよる価格が。そうしますと、それには対馬市が5,000万と1,000万、今度、補正を組みましたから、6,000万、対馬市は出すわけですね、補正で。そうすると、その金額も入って、漁連の金額が105円幾らになるんですかということ聞きよる。補正を予算を組んで、今、当初の、6,000万を組んどってのも、その金はどこに当てはまっているんですかということ。部長、お願いします。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） あくまでも、セーフティネットが発動して、セーフティネットで発動した額は半分が国費なんです。半分、その発動された単価の半分の引いた額が90円以上になれば、10円補填するという考えでございます。70円から90円になれば、5円補填いたしますが、90円以上になりますと、リッター当たり10円を補填すると、使ったリッター数によって、補填するという考えでございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） ちょっと、よう、分かりにくいんですが、私が聞きたいのは、市も6,000万出しているんでしょう、今度、補正を1,000万円入れてね。その6,000万

を市が燃油のために出した金、この金はどこに充当しとるんですかちゅうことを聞きよる。セーフティネットは分かりますよ。セーフティネットに関わる金にそれを出したんですか。それとも、漁民の燃料に対するために6,000万の補助を出したんですか。どちらなんですかということ聞きよる。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えいたします。

漁協を通じて、生産者の漁業者のほうに、直接補助をしております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 私はですね、要は、漁師の方たちの燃油が下がればいいんです。

セーフティネットだ、どこやろうが、漁連であろうが、そういうのはいいんです。それはそれで皆さんがやってくれとるわけです。それはいいんです。ところが、対馬市の財政から、6,000万を出しましたと。その金はどこに充当しとるんですかということ聞きよる。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この補助は、漁協を通じて、直接、漁業者のほうの燃油代に充填できるように補助しているところであります。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 私も漁師の方にちょっと聞いたんですが、漁協が出しよる金額が今106円だそうですよ。ということは、今、市長が言われる漁業者の方に直接それが行くということですが、それが行って106円なんですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 105円とかいうことは、これは、今、長崎県漁連が出す単価ですから、それから、国の補助の分がございます。それに、また、対馬市の、例えば、90円以上になれば、10円が出ますので、恐らく、80円ぐらいになるんじゃないかなと思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 80円ぐらいになっていますかね。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 105円ですと、5円ぐらいが、たしか、セーフティネットで国からも出ております。

すみません。令和3年度の第1四半期の補填単価が約リッター当たり、国の補填単価が9.5円ございます。令和3年度の第2四半期になりますと、約7.9円ぐらいになっております。これは、大体、補填単価の2分の1で、あとの半分は自己が払う分ですから、要は、これに、90円超えた場合、市の分が10円加算されることになりますので、令和3年の第1四半期では、

約19.5円ぐらいが、漁業者の皆さんの油購入される分よりも下がるということで理解していただければと思います。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 市長、安定操業するには60円ぐらいがと言われているんです。今、市長の答弁では、80円ぐらいにはなるでしょうということなんですが、今、燃油高騰の折ですから、60円ということにはいかんと思いますけど、しかし、それをできるだけ下げてやるのが、私は行政の仕事だろうと、こう思うんですよ。市長が言われる、基幹産業じゃ、漁業は基幹産業であるということであれば、そういうところにしっかりと力を入れる必要があると私はそういうふうに思います。

それで、いろいろ会話をしましたけども、要はリッター当たりの単価が下がればいいでしょう。ですね。それで漁民の皆さんが喜ぶんです。そして、漁にも出られるんです。だから、その安定を図るには、行政がこういうところに力を出してやるべきだと思いますので、これはお願いをしておきます。リッター当たりの単価が少しでも下がるように、補正を、足らなかつたら、補正を組んででも下げるような努力をお願いします。よろしいですか。どうぞ。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この燃油高騰対策につきましては、先々週、私も、この長崎県のほかの自治体の首長と共に東京のほうに出向きました折に、国交省関係、そして、離島振興関係の局長のところ、今、1番何が困っているかということで言われたときに、離島では、今、この燃油高騰対策が今1番困っているということで、ぜひ、この燃油高騰対策については助成をいただきたいと。今、壱岐、対馬、五島でも、それぞれ独自で助成はしてきておりますけども、なかなか、それだけでは行き届かない面もありますということで、国のほうにも、もう少し手厚い助成等をお願いしたいという要望はしてまいりました。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） この燃油の問題については、国のほうも備蓄している原油を放出するという決定もされとるみたいですが、なかなか、それが、離島のこういうところまで回ってくるというのは、いつになるか、分かりませんよね。しかし、そういうことを待ったんでは、漁師は飯が食べません。だから、そういうことを踏まえた中で、燃油高騰の折の今の現状を捉えて、単価が下がるように、最大限の努力をしていただくようお願いをいたします。

それから、2点目の、この減少対策についてでありますけど、今の対馬の人口、これは令和3年10月現在で2万8,916人。これが前月比にしますと48人減っているんです。前年比にしますと631人減少している。世帯数が、これも1万4,735世帯現在あるんですが、前年比からしますと136世帯減少しているという状況です。対馬の人口の推移を見ますと、

文献を見ても、江戸時代、元禄13年、西暦1700年ぐらいのときに、今からしますと320年前ぐらいです。このときの対馬の人口は、府中、厳原ですね、府中で1万6,047人、郷村で1万6,007人、合計しますと、3万2,054人、300年前にこんだけの人口があったんです。対馬にね。そうしますとね、それから、その当時はろうそくで生活をしておる時代ですから、今もう近代化されて、よくなっていますけども、その当時に、それだけの人口だったということなんです。1番ピークは、昭和30年代をはじめに、6万9,000幾ら、約7万人ぐらいおりました。それから対州鉱山の閉山もありました。いろいろいろいろ下がってきて、今現在は2万8,000人になっている。これだけ急激に減っていつているんですよ。

先ほども、私も言いましたけども、要は対馬にUIターンで、市長も努力されていると思うんですよ。しかし、それはやっても、年間に四、五十人、今まで60ぐらい来ているんですか。だけでも、こういうことでは間に合わないんです。対馬の減少は、人口の減少は。人口が減るということは産業も発展しません。人口が増えれば、産業も商店街もみんな潤って、経済はよくなってくるはずなんです。それをしていくには、どうするかということが、1番大きな課題だと私も思います。市長も頭を悩めとると思うんですが、しかし、そこに、私が一つ提案したいのが、先ほど言いましたインターネット通信、こちら辺を本土と変わらないぐらいの速さにする。そうすると、今はテレワークとか、そういうことで、会社に出勤しなくても、自宅でできますよね。こういう方たちに、そういうことは、対馬はこれだけのものは充実していますよと。東京に行かなくても、ここから、そういうことができますよと、そういうことはやる必要があると私思う。対馬は風光明媚なところで、地震ありません。雪も降りません。魚釣りもできます。ウォーキングもできます。神社仏閣もたくさんあります。歴史も豊富です。そういうことをしっかりとアピールをした中で、そういう人たちを引き入れてくるという施策も私は必要じゃないかなと思いますが、市長の答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このことに関しましては、先ほども壇上のほうから答弁させていただいたとおり、このインターネット等の情報通信環境を改善することは、本当に重要なことだと私自身も思っております。それと併せまして、対馬のほうにお見えになった方たちが、やはり、ちょっと、通信環境が弱いというような話も聞いております。そういうことで、数年前から、この通信環境の改善に向けては、ずっと、改善策を策定してきたところでありますけども、対馬市といたしまして、今現在の対馬市の光網、これだけでは、今から先、どうも、5Gにはなかなか対応が難しいというようなことも聞いておりますし、今現在、そして対馬市が構築した光網は、毎年3億から4億ぐらいの更新費が今後かかってまいります。こういうことから、これまでの公設民営の形では、なかなか新しい機器への改善ができないということで、今、総務省のほうも進

めております民間への移譲というようなことで、今の施設を民間のほうに移譲しながら、このインターネット通信環境の強化を図るということで、近いうちにお示しができるかとは思っているんですけども、実は来週も、そのことで総務省のほうにお願いに行くようにしておりますが、できる限り早い段階で、この改善は図っていく必要があるというふうに私自身も思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 市長、離島振興法というのは、昭和28年に施行されましたね。それからしますと68年たっているんです。あれは10年の時限立法ですから、あと2年すると、また、お願いせないかんわけです。10年間延長してもらわな。しかし、この法律は何かといいますと、要は本土との格差をなくすためにできたのが離島振興法なんです。それ、別に、今度は、谷川代議員がやってくれた国境離島新法、これもありますね。これは運賃、あるいは、そこら辺に特化したものですから、なかなか、これには使いにくいと思うんです。しかし、離島振興法の中では、国境離島、ここについての本土との格差をなくせるためには、どうしても通信ケーブル、これをやらなあかん。いうことを強く総務省のほうにお願いして、何とか、早く、これができるようにしないと、対馬の人口減少対策は成り立ちません。そう思いますので、市長も一緒に考えだと思えますんで、しっかり力を入れてやっていただきたいと、このように思います。よろしく願いいたします。

それから、3点目であります。観光対策。これは、特に、この対馬は、先ほども言いましたが、史跡、文化財が多いんですよ。観光の目玉というのはたくさんある。全部言いますと大変なことになりますが、要は先ほど市長も理解していただきましたけども、御朱印の記帳、これは、今、市長も言われましたが、宮司さんがおるところはいいと。ところが、おらんところでは、それができんんじゃないかということもあると思う。しかし、都会のほうでは、印判を作っているんですよ。そして、それを窓口においてある。300円ぐらい入れると。それをぼんと押せばいい。そういうことも可能なんです。だから、宮司さんがおらなければ、できんできんということじゃなしに、そういうのを置いといてでも、御朱印帳に記帳する。その喜びというのが観光客にあるんです。特に、この対馬は国境離島というのがありますから、わざわざ、あそこに行ってまで、そういうお寺とか、神社とかをお参りに行って来たということであれば、希少価値がたくさんあると思うんです。これをどうしてやっていくかということですが、先ほど言いましたが、印判を作って押す。そして、記帳代として、300円なら300円入れていただくということをやれば、そんな難しいことじゃない。観光交流商工部長、どうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 船越議員おっしゃいますように、ちょうど、御朱印は、こ

の元号が変わった、特に令和になってからの、またブームがあったというふうに聞いておりますし、今、例えば、和多都美神社なんかでも、宮司さんとか、禰宜さんとかおられますけれども、不在をされる場合もございます。そういったときに、今、アクリルの透明の箱に和紙ではがきサイズのものと同開きのものと置かれています。それを1日10枚ずつぐらい禰宜さん書かれて、印鑑を押しておいていただけますけども、また、留守していても、1日のうちに出向いて、減っておれば、また、その日に日付を入れて追加をしておくというような手法をされておりますので、そういう今おっしゃいますように、不在の場合でもできる方法はあるのかなとは思っています。以上です。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） やり方はいろいろあると思います。それを考えてやっていくのは、あなたたちの仕事なんですね。例えば、今、神社のことだけ言いましたが、お寺、ここもいいと思うんです。お寺が巖原に、長崎県の神社庁に登録されている神社は、巖原町内だけで36社ある。お寺が32、お寺があるんです。こういうことを回るだけでも、市長が言われるウオーキング。年配の方たちがそういうのを一つ一つ回って、夫婦で歩いて、一つずつ御朱印頂くということも健康のためにはいいでしょう。ましてや、対馬全島には「八十八カ所」ちゅうのあります。弘法大師の。こういうことも、全体をそういうマップというのを作って、そして、そういうところに行く手順も作って、全部書いて、そして、それを配布をしつつの中で、皆さんにそれを行っていただくというようにしていけば、大分変わってくると思うんですけど、そういう人たちが動くことによって、活気が出てくるんですよ。今、じいっとしとけば、人の通りがない。そういうこともなかったら、活気がないんです。この島全体に。だから、そういうことも含めて、観光交流商工部長、ちょっと、知恵を出して、それがどうすれば、よくなっていくかということをしっかり考えてください。

それともう1点言いたいのは、要は、今、行政の中も部長会議というのがありますね。私は、部長会議は確かにそれでいいんですが、要は、若い職員、係長、課長、おるでしょう。そういうところも、そういういろいろな会議をして、それを煮詰め上げて、そして部長会議に持ってきて、部長が会議を開くと。そういうシステムも必要じゃないかなと思います。若い職員たちは自分たちがしゃべる機会がないという人がおるでしょう。いろんなことを対馬のことを考えとる若い職員もおると思うんですよ。ところが、そういう人たちのその考え方というのは抹消されてしまって、部長会議の中でそれが決まってしまうだけで、自分たちの出るところがない。こういうこともあろうかと思えます。だから、そういうところも含めて、行政の中で、そういうことを一つ一つ拾い上げていった中で、職員全体でそういうことができるようなことも考えていただきたい。このように思います。

市長最後に、今まで3点質問しましたけども、御意見があれば、拝聴したいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大変参考になる貴重な御提案をいただいたというふうに思っております。私自身も、先ほど申されたように、この御朱印等は、今、ブームでありますので、このブームのときに、これだけ対馬でも130社ある神社。先ほどそして厳原のお寺が多いなどは思っていましたけど、32お寺あるというようなことでございますので、このことを今後の観光振興につなげてまいりたいというふうに思っております。

そして、また、人口減少対策につきましても、今、何せ、インターネットの時代でありますので、インターネット環境が都会に遜色ない環境にすることで、リモートワークとワーケーションと、こういったところがやれていきますので、このことも一所懸命に進めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 時間が1分切りましたので、最後のお礼だけ言っときますが、市長、それから、観光交流商工部長、農林水産部長、よろしくお願いしますよ。あなたたちが頼りですから、しっかり対馬を担っていくのは、あなたたちの能力ですから。それに決断を下すのは市長でしょうから。お願いをして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。2時5分から再開します。

午後1時51分休憩

午後2時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

報告します。上野洋次郎君から早退の届出があっております。

引き続き、市政一般質問を行います。13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 皆様、こんにちは。大変お疲れさまです。対政会の波田政和でございます。市長をはじめ執行部の皆さんにおかれましては、コロナ禍の中、毎日の行政運営で大変お疲れとは存じますが、質問の機会を頂きましたので何点かお尋ねしたいと思っております。

また、今議会の中で南部地区アクションプランが実現に向け進んでいる報告があり、南部地区出身の議員として感動しております。地域住民が納得いく住みやすい地域づくりに期待しております。ありがとうございました。どうぞよろしく願いいたします。

さて、猛威を振るった新型コロナウイルス感染も少し落ち着きを見せておりますが、新たに新種のウイルスも発生し引き続きお互い細心の注意を怠らず、毎日を平和に過ごせることを願っております。

また、島内経済支援策も上程がなされているようにありますが、市民皆様に平等であっていただきたいと願っております。さきの議会でも話しましたが市民一人一人に生活への体力をつけさせることが重要だと私は思っていますので考えてみてはいかがでしょうか。

それでは、本題に入らせていただきますが、まず、市長へ毎回の質疑の中で市民目線に立った御答弁のお願いを申しとおると思っておりますが、今回は市の管轄外の質疑も入っていることから、対馬市に在住する、生活する市民にとっては管轄区別は行政だけの問題であり市民生活に影響があることについては積極的に取り組んでいただいていると理解はしております。市民の声を伝え、行政と共戦の決意で臨んでおりますことから御対応をお願いしておきます。

まず、1点目の市道横町線と国道382号線の交通安全対策及び道路整備についてでございます。

共通の認識を求めるために確認の意味からお尋ねしておきます。町並み整備は住みよく快適な暮らしを1日も早く与えることを目的に計画的に行われていると思っておりますが、巖原本川、通称、川端通りであります国道382号線の起点側にあります佐野屋橋から川端通り上流にあります遊月橋前間の路面は改修の必要性が急務であると感じております。

また、市道横町線拡張工事に伴い大手橋交差点の国道側に一時停止規制がなされており、この橋の欄干が高いことから視界が悪く改良の必要があると私は考えますが、市長のお考えをお伺いいたします。

また、現在のように国道側に一時停止の規制をかけ市道側を優先させた理由も含めて市民が納得する説明をできたらお願いしたいと思っております。

次に、2点目の市道久田日掛線の道路改良及び交通安全対策についてお尋ねをいたします。今回は久田側についてお尋ねします。

久田白子地区にあります、ありあけ会館前から、通称、ペンション村入り口の通学路の整備についてですが、近年、交通量は減少しているものの通学路の安全対策に欠けている点も見受けられます。そのようなことから早急に通学歩道の安全対策に取り組んでいただきたい。

現在、この通学路においては校区の関係者の方々の御尽力で登下校の事故は防いでいるものの設備面での改良不足で事故が起きることはこの道路を管理する市の責任からも絶対にあってはならないと思っております。

近日では、本年10月、千葉県八街市で発生しました通学途中の小学生の列にトラックが突っ込み、児童5人が死傷した事例がっております。また、人的に防げていたかもしれない案件も

発生しております。

これまでもこの路線における点検や計画の検討はなされてきたと思いますが、現在、休止されている道路整備の今後の計画または通学路の安全性の担保について、大きく2点について市長の御答弁を願っておきます。

また、内容次第で自席より再質問したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 波田議員の質問にお答えいたします。

まず、現在、改良を進めております市道横町線の進捗についてでございますが、平成22年10月に地権者等を対象としました意見交換会をはじめに事業説明会、また沿線の方々はもとよりこれまでまちづくりに関わっていただきましたまちづくり整備委員会や関係団体など多くの皆様に御協力いただきました。

約2か年にわたり開催してきました横町線並びにふれあい処つしまの整備に関するワークショップなどで御意見や御協力を得て実施してきた都市計画道路横町線改築事業も巖原郵便局から今屋敷公園部分の約65メートルを残すのみとなっており、順調に進めば無電柱化事業の抜柱が少々遅れるものの道路部の完成を来年の7月をめどに施工しているところでございます。

改良前の状況は、道幅4メートル程度にも関わらず車両や歩行者が混入し安全確保もままならない状況でございました。本路線の完成後は歩車道を分離し交通の安全も確保しつつ防災の観点からも安心感のある道路となることと考えております。

都市計画道路横町線の経緯でございますが、昭和43年に都市計画決定されました7路線のうちの1路線で、巖原町大手橋地区を起点、終点を巖原町国分市役所前の桜橋とする約320メートル、幅員12メートルの計画路線でございます。

そのうちの主要地方道巖原豆殿美津島線より市役所側は対馬市交流センターの整備と併せ平成13年度から18年度にかけて約110メートルを整備しているところでございます。

現在、実施中の区間につきましては、第2期巖原城下町地区都市再生整備計画事業の核となる事業と位置づけ、対馬市まちづくり活性化推進協議会などを経まして事業計画に至っております。

本区間の整備の主な目的ですが、まず巖原本川に連なる川端通り商店街と市街地の観光商工の核となる対馬市交流センターを結び、人や物を循環させることにより相乗効果の向上を図ることでございます。2つ目は、交流人口の増加に伴い本路線を通る歩行者が増え、従来利用されていた通行車両等へ支障をきたしていたこと、3つ目は、防災上の観点からでございますが、巖原の城下町は大火に見舞われた経緯もあることから防火壁や木造の橋梁を石橋に架け替えられるなどの施策が取られてきた経緯もあり、本路線を幅員12メートルで整備することで、万が一、火災が発生した場合の延焼防止、また緊急車両の進入も容易となり安心・安全なまちづくりを主な目

的として事業着手しているところでございます。

横町線と国道の交差部でございますが、大手橋の高欄、また国道の転落防止柵によりまして車両からの視界が悪く、より慎重な通行をせざるを得ない状況でございます。巖原本川に架かる8つの橋梁は、今から約30年前、平成の城下町づくり事業、川端8橋で整備されたものでございます。

本橋梁には景観を楽しむため歩道に人だまりを設置し、歩道部に必要な転落防止柵も兼ねておりますので、路面からの高さを確保しているところでございます。また、景観上、石材を使用していますので各部材も大きく双方の目視確認が難しい状況で、完成当ても車や人が見えにくいなどの意見が寄せられた経緯もあると聞いております。

道路施設の機能と城下町の景観の両立は難しく、当時からそのような御意見に対し御理解をお願いし今日に至っている次第であります。国道382号並びに横町線を利用される市民の皆様には通行の支障になるかとは存じますが、今後も大手橋の形状に御理解を賜り慎重な通行に御配慮くださいますようお願いいたします。

国道382号の路面状況につきましては、私も実は昨日も現地のほうに出向いて見させていただきました。気にかかるところであります。管理者である県にも平成の城下町づくり事業へ同調いただき、同路線の遊月橋の改良並びに同橋から佐野屋橋までの区間を石張り舗装に改良していただいたと聞いております。

そのような経緯がある東川端通りは城下町の景観に関わる重要な部分でもございます。現状を見ますと経年劣化も進んでおりますので、これまでの経緯も踏まえながら、県と今一度、協議、連携し子供から高齢者まで暮らしやすいまちづくりを目指し、現在、進めております新たな市街地の整備計画に取り組んでまいりたいと考えております。

この中で、国道382号が一時停止となり見えにくいというようなことで、なぜ横町線が優先道路となったのかというような御質問がございました。このことにつきましては、横町線の令和2年3月末の完成を見据え令和2年2月末から南警察署と協議を進める中で、県公安委員会が幅員が広い道路を優先道路とするとの決定がなされているところでございます。

市といたしましては、その後、市民の意見を踏まえ、これまでどおり国道を優先道路にしてほしい、また優先道路が分かりづらいこともあり協議を重ねましたが、国道に一時停止線を設け警察による街頭指導を実施するとの回答があり今日に至っているところであります。

次に、市道久田日掛線の道路改良及び交通安全対策についてでございますが、市道久田日掛線の久田工区につきましては、計画延長約420メートル、事業期間が平成13年度から平成16年度までの4か年で、事業実施延長は主要地方道巖原豆殿美津島線との交差部から約320メートル、全体幅員約10メートルのうち片側歩道2.5メートルで施工しているところでございます。

実施当時、峰越団地並びに通称ガーデンヒルズに居住区域が広がっていることもありまして、計画どおり事業が進めば歩道も整備され安全な通学路も確保されることから、事業推進の措置を講じてまいりましたが未達成のまま施工箇所を日掛工区に移したと聞いております。

施工箇所を移してから十数年経過し、児童の通学するルートも比較的安全なガーデンヒルズ内を利用していることから事業再開の措置を講じてこなかったことは否めません。

つきましては、当時、断念いたしました約100メートルの未完成区間に着手できるよう働きかけるとともに、短期的に通学の安全確保ができるよう関係部局や県警と協議をしながら整備を進めてまいり所存であります。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 御答弁ありがとうございます。

まず、初めに市道横町線の話になりますが、これまでの歴史とか、今、縷々説明がありました。そういう中で少し具体的な話をさせていただきます。

市民の利便性を考えての工事でなかろうかとは理解しておりますから、その辺の中で専門的分野ではございませんが横町線を広げるに当たり、設計する段階からもう実は私が今、指摘しました橋の構造が縦断曲線構造でございますので腹が膨らんでいるのは分かっておりますと言うか、それは分かって横町線を設計したという捉え方でよろしいんですかね。

そうなりますと、当初からまず橋をやり直すのか、それとも横町線を地上げするのかとか、いろんな方法があったのではなかろうかなと考えます。私が言っているのはまちづくりというのはそういう住みやすいのを基本に進んでいくべきものではないかなと思っております。

だから、今、市長の言うのは、言葉は適切かどうか分かりませんが、取り付けたような話に聞こえるんですね。住みよいまちづくりをやるなら欄干が高いから転落防止柵が高いから離合するのに難しいと言っているわけですから、そしたらそれを改善してやるのが市長の仕事ではないんですかね。それはそういう橋の造りも大事かもしれません。しかしそういう景観よりも大事なのって住みやすいのを造ってやるのが仕事ではないんですかね。今、現況にそういう形だからやむを得ないんですよということだったら、全てがやむを得ないことになるではないですか。私が言っているのは、先ほども市長が新たな整備計画も考えながらやっていくという話をなされたので、この辺は期待をしたいと思いますが、いずれにしても現況よりよくしてやらなければいけないということを私は強くお願いしたいんですよ。だから、何を優先するかというのは、それは考え方かもしれません。しかし、安全を優先するのが当たり前ではないんですかね。

そして、次に管轄違いの路面の話になりますが、市長も行かれて分かったとおり国道に石張りを敷くなんか普通は考えられない話ですよ。でも結局はそうなっているわけですから、もちろん

補修はしっかりしてあります。してありますが、だからと言ってそのままではいけないではないですか。もう通ってみてもガタガタと音はするし非常に行きにくいです。

先ほどから児童の安全面も含めて言っておりますが、歩道も車道もあそこは分からないですね、何が何やら。そういうことも優しい町並みづくりの中に入れてもらわないと、せっかくやるのが成果として出ないのではなかろうかと思えます。

だから、今、何点か話しましたように橋が大事ならもう少し横町線の考え方を変えてもよかったのではなかろうかなとは思っております。安全を最優先するならですよ。

そういう中で、今、市長が申す中で私なりに考えたんですけど、住みよいまちづくりをやるためにこの計画は進めてきたという話でございますが、皆さんも御存じのようにあの路線には郵便局がありまして、今、減築工事がなされておりますよね。そういう中でもともと買収するであろうという場所が仮囲いで囲ってありますよね。非常にあそこは狭隘で通りにくいではないですか。私がここでお願いしたいのは、発注先が仮に違ったとしても市の管理者としてあの対策がなぜできないのか、工期があるから工期いっぱいあのままでもいいという考え方でやったら優しくないではないですか。

なぜならば、仮囲いするということはあそこが狭くなりますよね、あそこは信号機があるんですよ。市が管轄する幅員が広がっている場所があるではないですか、あそこを停止位置にするぐらいの考えはないんですか。そしたらあそこはもう少し、1台しか通れませんが、あそこで離合するのも大変ですよ、車の離合。それとまた人間も歩きますのでね、そういうことまでこれから考えていってもらいたいということをお話したいんですよ。

だから、幾ら工期があるまで仕方ないですよということの話だったら、山の中をやっているわけではないんですから、その辺をちょっと今後、今回は市は直接関係なかったとしても、市とすれば停止位置をバックするのは簡単なことです、決めればいいことですから。歩行者安全第一と考えるならですね、市長、私が言っている意味を分かっただけですか。どうですか。ちょっとそこを答えてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、大手橋のところとのすり付けの関係でありますけども、昨日、私も夕方に現地のほうに出向いて担当者からの説明もしてもらいました。そのときに何であそこの手橋のほうは結構高くて、10%ぐらいの勾配がついてすり付けてあるんですけども、何でこちらが上げられなかったのかということについては、やはり横町線のほうを上げますと今度は雨が降った場合等にその雨水が民地のほうに流れ込む可能性があるというようなことから、もうやむを得なかったというようなことを聞いております。

それと、またこの、今、元郵便局跡の仮囲いの件につきましては後ほど担当部長のほうにち

よっと答弁させていただきますけども、今度、遊月橋から大手橋付近の国道382号線の路面ブロックについては担当課のほうで県のほうとも話を進めているみたいで、県のほうも検討していきたいということを言っているそうでございますので、もうしばらくお待ちいただければというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 建設部長、佐々木雅仁君。

○建設部長（佐々木 雅仁君） 郵便局横の仮囲いの件でございますけども、この仮囲いにつきましては、今、郵便局の解体工事に伴いまして郵便局のほう側が工事発注業者をお願いをして造っているところでございます。

それで、市のほうからの指導もあまりうまくできていなかったということも反省しておりますが、この工事自体が郵便局のくいを抜いた後に12月中には市のほうに用地が引き渡されるということを知っております。

今、波田議員がおっしゃられるように停止位置を今の位置から既にも買収している後ろのほうにバックできないかということだと思いますけども、それについては警察のほうともちょっと協議はしてみたいと思います。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 分かりました。前向きに考えてあるということは理解しておりますが、先ほどから話しますように指摘されたら誰でもできるんですね。指摘する前に住みよいまちづくりをとという話をしていると思うんですよ。だから、そういったことを考えたら1日も早く離合しやすく快適になれるようにしていただきたい、停止線の話はそうです。今の話では12月いっぱい仮囲いを解くんですか、そして市が権限を持つんですか、もう一度、教えてください。

○議長（初村 久藏君） 建設部長、佐々木雅仁君。

○建設部長（佐々木 雅仁君） 12月中にはもう市のほうに用地が引き渡されるというふうになっております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 分かりました。ということは、あそこが引き渡すイコールまた市としては工事を発注するということになりますよね。そしたらまだ日にちはずっとかかるということにならないですか、どうですか、もう一度、そこを。

○議長（初村 久藏君） 建設部長、佐々木雅仁君。

○建設部長（佐々木 雅仁君） もう工事については施工業者も決まっておりますし、その前に電線の地中化工事も入ってきます。その地中化のほうの契約も既に済んでおりますので、仮囲いが

取れたら早急にかかるように業者のほうに指導したいと思います。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 分かりました。そうしますと、今の私が早合点で今回質疑したのがよかったか悪かったかは別としまして、1日も早くそういった施工ができるように生活しやすいまちづくりのために早急にやってください。その期間中もそんな3日や5日でできる話ではございませんから、もう少し交通渋滞をなくすために停止位置をセットバックすることをすぐ動いてみたらどうでしょうか。そのほうがあそこはやりやすいと思っておりますが、その辺はまた再度御検討ください。

次に、先ほどのペンション村の通りの話でございますが、いろいろ途中で工事が中断した話も理解はしました。私が言いたいのは、住んである方が自主的に自分たちの安全を見つけるための道路を造ったわけではございませんが、市有地を通りながらでも安全対策に努めているということが現況だと思います。

私がここでお願いしたいのは、今、私がこの話をしたわけですから逆に言えば対策というのは幾つでもあると思うんですね。例えば本当で何とかしなくてはいけないと思うならスクールゾーンでありますよと明確に標識を付けるとかですね、グリーンベルトを敷設するとか、いろんな看板を立てるとかしてできるではないですか。先ほど交通事故の事例も言いましたけども何かあったら遅いんですよ。私が一番、あの付近を見てもらえば分かりますけども、ありあけ会館の左側にずっと路側帯があるんですよ、もう途中で切れているんですよ。ここを問題視しているんですよ。切れているからそこで何か案内してやらないといけないではないですか。だからそれは市でできることです、そんなことは。同じ幅員取って同じ形態をやってくれと言っているわけではないんですよ、視覚効果とでも言いますかね、みんなに分かるように、本当はここはスクールゾーンなんだけども、ここで注意してくださいよとか、そういったことを注意喚起ができる対策を取っていただきたいということをこの場所では強くお願いしたいんですね。そうすることによってお互い意識するではないですか。その辺が市として何かあってからでは遅いので何もないうちにこういう話をしております。また、そうすることによって地域住民も安心をすると思っております。

また、この久田地区は生徒さんもたくさん、少ない学校ではございませんのでいろんなそういった各方面からもたくさん通勤してきてありますが、全体から言ってもまだまだ未整備なところがたくさんあると思います。そういうことを考えながら、しっかりした設備も大事かもしれませんが間に合わなかったら視覚効果、目で見えて分かるようなものを要望しておきたいなと思っております。市長、ここはどうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、議員おっしゃられる場所につきましても、昨日、見てまいりましたけども、確かに途中で切れているということで何らかの措置が必要かなと思いますので、今後、担当部のほうとも協議をいたしまして何とかそのような形で進めていきたいなと思います。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。そのように市民の声がそっち方向の話があつておりますので、ぜひ取り上げていただいて何とか安全対策を取っていただきたいと思っております。期待しておりますのでよろしくお願い致します。

それと、もう1点、通告外ではございますが関連として1つお尋ねをしておきます。

先ほどから、川端、大町に通じるまでのお話をしておりますが、市長は今議会もたくさん観光誘致とかPRとか話をされていますよね。それはなぜかということは対馬の経済を上向きにやらんがためのことだと思っているんですよ。そういう中で対馬のPRのために笑い事ではございませんけど1つ提案をしておきたいんです。観光を盛り上げるために、いいですか、今、世の中の話題沸騰の日本ハムファイターズ、新庄さん、実は対馬の方なんですよね。そういったことで既に御承知と思いますが、前回、この人も民放で「爆買い☆スター恩返し」ということで対馬で入れてあるんですよ。この方なんか観光大使に迎え入れてでも何とか1つ起爆剤ができるのではないかなと私なりに思っております。そういった意味から、また違う発想のもとお願いしてはどうかなと思っておりますが、市長、どっか隅にはございませんでしたか、ひとつお答えください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 実は私のところに直接ではありませんでしたけども、市民の方から日ハムのビッグボスは対馬出身だということで、何か役割と申しますか対馬に呼べないかなというように何かお話がありましたということで、私のところに報告はございました。

そういうことでありますし、今、日本ハムファイターズの監督に就任されたばかりでまだまだおそろくばたばたしてあることだろうとは思いますが、ちょっとまたそこら辺は観光大使等をお願いすることが可能かどうかも含めまして、また観光部局等といろいろと協議はしてみたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。市民の方もそういった情報を市長さんにお話があつたと説明がありました。ならやっぱりすぐにでも当たってみる必要もいいではないですか、相手がいい悪いは別として。この間、テレビを見ておりましたら、私はバラエティーでもたくさん出ながらでもやっていきたいみたいな話も話してられました。そういったことを考えたら、やっぱり一言言葉を発することによってまた違う効果が出るかもしれないではないです

か、その辺も含めてどうですか、観光交流商工部長、せっかくですから一言。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 今、波田議員おっしゃいましたように、実は11月初旬だったと思うんですけども、うちの観光商工課長がちょうど東京のほうに別件で出張というようなことがありますて、その折に課長のほうも今まさに議員おっしゃってくださったようなそういうアプローチをかけに行きたいというような入り口を探そうという矢先だったんですけども、今回、監督になられるということがちょうどその頃だったと思うんですけども、今のところ、今、市長が申しますように多忙な時期かなと、いろんなこともあってちょっとそのときは入り口を探すのは待っておったというようなこともありますので、ぜひこれから先、せっかくですので何とか観光大使とかそういう立場になっていただけないか、そのアプローチをかけて入り口を探してというようなこともやっていってみようかなと、市長も申しますように我々もそういうことで進んでみたいというふうな思いはございます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。そういった意味から何が起爆剤となってPRが行き届くかということは、これといったものないかもしれませんが、やっぱり今の話題に乗ってやっていくことが一番大事であるし、観光も含めて対馬自体がよくなるためにやっていると思うんですよ。町並み整備も全てですね、そういったことから考えたら、ありとあらゆることを後出しではなくて自分たちから進んでやっていくということを市長はじめ職員の方々にお願いしたいんですよ。

これは島がよくなることでございますので、皆さんが常に真剣に考えながら業務はなされておるということは前提のもとで話をさせていただいておりますから、やっぱりそういったこともどういう動きをしているのかを実は市民も分からないではないですか、結果が出るまではですね。だから我々もそういった時間をいただきながら、公の電波を借りながらいろんな角度で話をさせてもらっているはずなんです。そういった意味から今回は地域の声を市長に伝えながら、やっぱり来る対馬の観光産業がよくなるように、元に戻るように私は期待しながらお願いしております。

私事で申し訳ございませんが、私が機会あって旅行に行くことがあったんですが、そういう中で工事看板がたくさんあるとかホテルに足場がかかっているというのはもう台なしなんです、気持ちよく行っても。だからこそ、今、観光客が少ないときにいろんなことを整備を急ピッチでやっていただきながら、たくさんの観光客が対馬に来島したときに気持ちよく帰っていただけるように、常日頃から考えていただければ対馬のPRになるかと思っておりますので、いろいろ含

めて対馬がよくなるように市長をはじめ皆さんお力を貸していただきながら頑張ってもらいたい
と思いますのでよろしくをお願いします。

これで、少し早いですが終わります。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、波田政和君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

本日はこれで散会にします。お疲れさまでした。

午後2時49分散会
